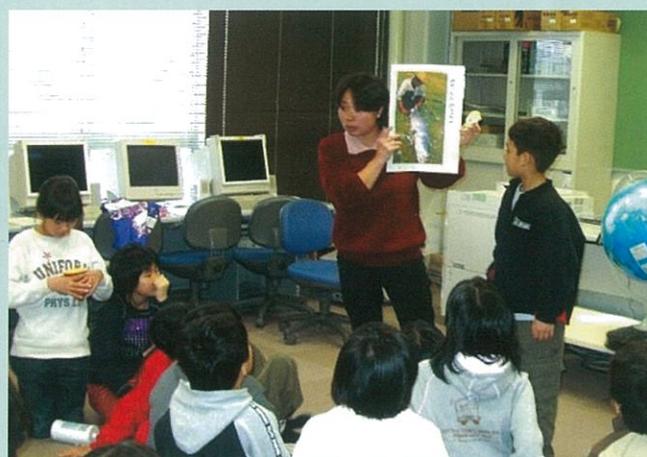


国際理解教育

地球市民を地域とともに育てよう part 3

報告書



ブラジルボックス
違いを尊重できる感性を育てるために
参加型学習で学ぼう “多文化共生”

(財) 滋賀県国際協会

はじめに

平成16年12月末現在の滋賀県国際課の調査によると、「滋賀県における外国人登録者数」は、27,863人となり*1、今や県民50人に1人が外国人になりました。また、国籍別に見てみると82カ国の方がお住まいで、その内訳は、ブラジル45%、韓国・朝鮮23%、中国10%、ペルー・フィリピン7%、アメリカ1%、その他7%と続きます。*2

この背景には、平成2年に一部改正された入国管理法により、日系二世、三世に「定住者」の在留資格が認められるようになったことと、当時の日本のバブル景気による労働力不足が追い風となり、日系南米出身者の来日が急激に増加してきたことがあります。滋賀県でも同様にその流れを受け、外国籍住民の中でもっとも多い出身国は平成9年以降韓国・朝鮮籍の住民数を超え、ブラジルとなっています。また、国の「留学生10万人受け入れ計画」の下、県内大学の留学生の数は現在960人*3に上り、その出身国は35カ国にも及びます。こうした状況は今後さらに続き、滋賀県においても「多民族多文化社会」が急激に進むことが予想されます。

しかしながら、地域社会においては、さまざまな文化背景や価値観をもつ人びとがともに暮らしていることについてまだまだ認識が浅く、外国籍住民については暮らしづらいと感じることも事実のようです。特に、地域の学校に通う外国籍の子どもたちについては、教員やクラスメイトたちから異質なものとして見られていると感じていたり、日本社会に適応しようとするあまり自らのアイデンティティを見出せずに悩んでいたりと、非常に辛い思いをしている現状が聞こえてきます。

そこで平成16年度は、「違いを尊重できる感性を育てるために」というテーマで、誰もが自分らしくいきいきと暮らしていける社会づくりを目指し、国際理解教育事業をすすめてきました。その中でも特に、身近に触れる機会の多い「ブラジル」について焦点をあて、改めて多くの方々に紹介し、理解を広げることを目的に、「国際理解教育研究会 くわいりかいきょういく Glocal net Shiga」と在住ブラジル人の方々が協力して、国際理解教育教材「ブラジルボックス」を作製し、県内の小中学校などへブラジル人講師による出張講座を行いました。このボックスには、ブラジル人の子どもたちがこうしたきっかけで自尊心を持てるようになることや、彼らの保護者たちも積極的に地域や学校の行事に参画しやすくなるようにという願いも同時に込められています。

このブラジルボックスの作製、派遣事業をはじめ、平成16年度開催したワークショップでの成果について、この報告書でお伝えするとともに、地域で「多文化共生社会づくり」がますます広がりをみせることを期待しております。

(財)滋賀県国際協会

*1 参考までに伊香郡4町の総人口は、27,601人、志賀町は22,189人(平成17年2月1日現在)です。

*2 資料編(P71)滋賀県における外国人登録者数グラフを参照ください。

*3 滋賀県留学生交流推進会議の調査(平成16年11月現在)より。

目次

はじめに

国際理解教育教材 ブラジルボックスについて

ブラジルボックス講師の感想	1
ブラジルボックスには何が入っているの？	6
ブラジルボックスを活用したモデル授業	11

実績報告編

ブラジルボックス実践例	13
子どもたちの感想など	16

国際理解教育公開ワークショップ

「参加型学習で学ぼう“多文化共生” ブラジルボックス&レヌカの学び」

開催日 平成17年1月16日(日)

主催(財)滋賀県国際協会 共催 国際理解教育研究会 Glocal net Shiga 後援(特活)開発教育協会

「ブラジルボックスを活用した模擬授業」 20

モノから学ぶ多様な文化を持つブラジル

ラウラちゃんの日から学ぶブラジル

「多文化共生を考えるカードゲーム レヌカの学び」

(特活)開発教育協会 企画推進委員 土橋 泰子 さん

国際理解教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part3 ファシリテーター養成講座

「違いを尊重できる感性を育てるために」

開催日 平成16年6月13日(日)

主催 財団法人滋賀県国際協会

共催 独立行政法人国際協力機構大阪国際センター、国際理解教育研究会 Glocal net Shiga

後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、滋賀県小中学校国際理解教育部会、滋賀県高等学校国際教育研究協議会、(特活)開発教育協会

「教育は子どもたちの翼になる～アパルトヘイトを乗り越えて～」

ヒランガニ・ングタアンド 主宰者 トーマス C. カンサ さん 24

「ひょうたん島問題～多文化共生をめざして～」

同志社女子大学現代社会学部現代子ども学科 教授 藤原 孝章 さん 26

アイスブレイキング、アクティビティ実践例紹介 38

昨年の実績報告書より

公開ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」「貿易ゲーム」 41

国際民衆保健協議会 IPHC 日本連絡事務所 代表 池住 義憲 さん 47

ピナツボ復興むさしのネット(ピナツ) 職員 出口 雅子さん 55

国際理解教育研究会 Glocal net Shiga 活動報告 59

資料編

国際理解教育・開発教育貸出教材リスト 61

滋賀県内外国人登録者数の推移(平成16年末) 71

関連新聞記事 72

用語解説 75

おわりに

国際理解教育教材「ブラジルボックス」講師の感想集

彦根市国際交流員 田尾弥生ロザーネさん

ブラジルボックスを県内の小中学校で紹介させて頂き、誠にありがたく感じております。お陰さまで、授業を受けられた生徒たちは非常にブラジルについて感心、興味が深まったと思います。

私は彦根市で国際交流員として勤務しておりますが、ボックスを通して、日本の皆様との交流や国際理解が一番できたのではないのでしょうか。子どもより大人の方が、違和感、先入観、差別を日常生活の中では意識せずに持っています。幼いときから、学校側が国際理解教室などをずっと設ければ、10年後、日本は国際的な国になるでしょう。外国の文化、習慣、価値観を理解するには、やはり、根本的に外国人とふれあって、変わったものに触ったり、変わった味の物を食べたり、見たりすることが大事です。本で読むこと、インターネットで調べることなどは、子どもたちの勉強につながりますが、一番大切に一生すべきことは、人間関係であると思います。

日本は発展した国であっても、人間と人間の絆、愛情、友情ということを忘れてきています。このような感情は学校も深いかかわりと役目を持っています。家庭で教えてもらうこと、学校で教えてもらうことは大人から子どもに伝えることが多いです。ブラジルボックスの場合は、私が紹介しただけで、生徒たちの喜び、驚き、疑う表情などを見て、新たに発見したことは、「子どもの素直さ、賢さ」でした。ものを見せて、おもわぬ質問や感想、大人に想像がつかないものを幾つもだしてくれました。

ブラジルボックスの活用は、今後も続けていただきたいです。海外のものにふれ



あうだけではなく、本当の国際交流ができるからです。色々日本中で国際化を目指しながら、もっと変わったテーマで母国ブラジルのPRができれば嬉しいです。日系ブラジル人のルーツ（移民）、食文化、価値観、自然、習慣、職業、教育、スポーツ、あらゆる分野でしっかり又機会がありましたら紹介させて下さい。宜しくお願い致します。



ブラジルボックス、私の感想

彦根市外国籍児童生徒相談員 奥村ルシア克子さん

ブラジルを紹介することは簡単ではありません。なぜならブラジルには多様な文化や習慣が存在し、現在でもそれらが進化しているからです。

けれども、ブラジルボックスを使うことで、次のようなメリットや効果を感じることができまし

た。

ボックスを使うことでテーマが定まり、紹介の進め方をスムーズに行うことができます。

伝えるテーマが（あれもこれもと欲張ることなく）定まっているので、スムーズに授業ができました。

受ける方の条件に合わせながら工夫が出来るため、とても使い易いです。

受ける側に関して、一方的にお話を聞いていくのではなく、自分たちも一緒に参加できます。

様々な実物や写真が準備されていますので、楽しい授業が進められます。

児童たちは想像を膨らませながら、楽しく仲間たちと一緒に考えていくことができます。

これまで、学校の授業や自分が文化紹介に出向いたときも含めて、子どもたちは、一方的に話を聞かされることが多かったけれど、ブラジルボックスは、子どもたち自身が実物に触って、想像して、考えながら参加できたことが良かったと思いました。

ボックスを通じて児童たちが感じたことや思ったことをはっきり発表することができます。

授業の流れの中に、グループの代表が発表しなければならないというのがありますが、日本の子どもたちは人前で発表することに慣れていないように感じて取れました。このスタイルの授業では、人前で発表することに慣れさせることができます。

ファシリテーターが、ステレオタイプ的なイメージを変える良い機会です。

子どもたちの答えが合っていなかった時、「見るだけや思い込みなどで、判断してはいけない」というメッセージを送りました。また、ファシリテーターとして自分が最後に説明をするときは、子どもたちの持つステレオタイプを変えてみるチャンスだったと思います。

小学校の国際理解教育にブラジルボックスを使ってもらえて、希望が見出せたし、もっと工夫ができると思いました。ものは壊れたこともありましたが、楽しく、授業をやっていたように感じました。なにより、自分自身も楽しくできました。機会があれば、続けていきたいと思っています。

ブラジルボックスと出合って

近江八幡市外国人相談員 前田オルガ豊子さん

すばらしい人材が協力しあい、すばらしい教材が誕生しました。
感動しました。こころが熱くなりました。

移民の歴史紹介が一番こころに残りました。ブラジル系日本人として日本で生きる私は祖父や祖母、父や母から日本のお話、ブラジルに着いてからの挑戦、失敗や成功など語りきれない話を聞きながら育ちました。

ブラジルボックスと出ってから、慌しい日々を送る中、改めて自分のルーツについて考える機会が現れました。

ブラジルに在住する、今年90歳を向かえた伯父が6年前に書いてくれた手紙を再び手に取りました。「私はブラジルに来て65年になり、・・・いまだに何につけ日本人を意識した生活を営んでおります。“血は水より濃い”という諺の如く、生まれ育った伝統というものはそう簡単にぬぐい去ることは出来ないもののようです。・・・おかしなもので、日ごろは無上にこのブラジルを愛し、その発展を願って・・・いるのです。“生みの親より育ての親”ということかもしれません。」日本に生きる私は同じことを受け入れてくれたこの地で言えるのではないかと思います。

中途半端なアイデンティティーではなくダブルなアイデンティティーを持っている私たちなのだ気付かされました。豊かな人間性を発揮し、誇りを持ってダブル文化を生きようと勇気づけられました。

ブラジルボックスが日本の皆様にこういった生き方や価値観、そしてブラジル文化や国そのもののすばらしさを伝えるツールになればと願っております。



左列中央が、前田オルガさん
総合教育センター 15年目経験者研修にて

これからも、よろしくおねがいします

湖南省日本語指導員 安中シルレイさん

ブラジルボックスを講師できて、とてもよかったです。なぜなら子どもたちにすこしでもブラジルのぶんかになれてもらいたかったからです。

ブラジルについては、テレビでみたり、しんぶんではよんだりするカーニバルやじけんのこと、しぜんのことしかしてもらえていないとおもったのでよけいにしてもらいたくなりました。

あまりほかのひとにはなしていないことなんですけど、アマゾンといえはせかいいちおおきいといわれているしんりんしかおもいうかべられませんが、アマゾンにはとてもおおきくてうつくしいまちがあるのです。とくにそのようなところをしてもらいたいです。

子どもたちがブラジルのぶんかにきょうみをもってくれるとよいとおもいます。あまりにほんごがじょうずじゃないわたしをさそっていただいてうれしかったです。これからも、よろしくおねがいします。



日系移民折り紙展 製作者のお一人 カナガエ マリさんより

Burajiru no kodomotachini iroiro enjou ni tsuite taihen ureshiku omoimasu.
Goseikouwo oinori itashimasu.

国際理解教育教材 ブラジルボックスについて

滋賀県に暮らす外国人の約半数がブラジル人ということから、身近に触れる機会の多いブラジルの生活文化や習慣への理解を深め、多文化共生の意識を育むための一助として、「国際理解教育研究会 Glocal net Shiga」と在住ブラジル人の方々が協力して、「ブラジルボックス」という教材を作りました。ぜひ、国際理解教育の授業や講座でご利用ください。



ブラジルボックスに収められているもの

誕生日に関するもの
誕生日用口ウソク
パロン（風船）
飴の包み紙
誕生日パーティ招待状
色付き砂糖
飴を包んだ見本

シマホン
（マテ茶を飲む道具）
クエア
ボンバ
台
マテ茶葉

赤ちゃんにまつわるもの
ピラス付き赤ちゃん人形
出産祝い返しマスコット

食べ物に関するもの
やしの芽
フェイジャオン
ガラナジュース
コーヒー生豆
ニョキーラ

インディオ・アマゾンに関するもの
ピラルクのうろこ
ピラルクの舌
ガラナ棒
インディオの装飾品

楽器
ベリンバウ

おもちゃ
ペテッカ
こま

その他
ブラジル地図
ブラジル国旗
リオ・グランデ・ド・スール州地図
リオ・グランデ・ド・スール州卓上旗
通貨
授業実践例ビデオ
利用マニュアル
もの＆写真の解説
授業案、料理レシピ
利用者アンケート等

書籍類
ブラジルと出会おう
BRAZIL
Brazil in the school
小学4年生算数教科書
漫画

写真教材
日系移民折り紙展
誕生日パーティー
ピラルク
シマホンの淹れ方
風景写真
学校、生活風景など

ブラジルボックスには何が入っているの？ もの&写真解説



誕生日パーティー用 ろうそく

0 5 7 数字の形
になっています。
日本では、歳の数のロ
ウソクをケーキにたて
ますが、ブラジルでは、
数字の形をしたロウソ
クを組み合わせて使い
ます。



ピラルクのうろこ

アマゾンにいる熱帯魚
ピラルク（体長2～4
メートルにもなる）の
うろこを、先住民のイン
ディオをはじめ、ブラ
ジルの方たちは、ア
クセサリーや爪とぎ、
大きなものは靴べらと
して利用しています。



パロン （余興に使う風船）

誕生日パーティーで、
この風船の中にキャン
ディーやチョコレート、
ミニカーやおもちゃの
指輪などを入れて膨ら
ませ、天井から吊るし、
1・2・3で尖ったも
ので割ります。飛び散
ったものを子どもたち
が拾い集め、お土産に
持ち帰ります。



ピラルクの舌

小さいものは、ガラナ
棒を粉にするための削
る道具として使われたり、
大きなものは、足
のかかとの角質削りな
どに使われたりしてい
るそうです。



飴の包み紙

誕生日パーティーなど
には欠かせないココナ
ツの飴を包む包み紙。
包むとヒラヒラがきれ
いなので、会場のディ
スプレイに利用し、来
てくれた方たちにお土
産としてプレゼントし
ます。



ガラナ棒

アマゾンで収穫される
ガラナという赤い果実
を磨り潰し、固めたも
の。これを摩り粉にし
て、水に溶かすなどし
て飲む。主にインディ
オが漢方薬のように、
精力剤として飲んでい
ます。



インディオの装飾品

（上）インディオの
頭飾り
（下）左は、動物の歯で
できた首飾り
中央の首飾りには色と
りどりの石の間に、手
を現した木の彫り物が
見られます。これは握
りこぶしの人差し指と
中指の間から、親指を
出した形を現していて、
災難除けのお守りの意
味を持っています。



誕生日パーティーの 招待状

ブラジルでとても人気
のあるキャラクターが
書かれています。中
には、「こんにちは。
くん/ちゃん。私の
回目のお誕生日パー
ティーに来てください」
月日・時間・場所が書
けるようになっていま
す。



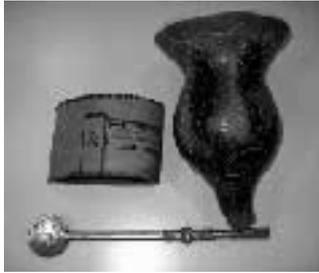
色付き砂糖

誕生日パーティーなど
で作られるケーキやお
菓子を飾るために使い
ます



ベリンバウ（弦楽 器）のミニチュア

ブラジルを代表する格
闘技カポエイラに使わ
れます。ベリンバウは
1本の弦を弓状の棒に
つけ、共鳴箱の役割を
する瓢箪を、音の調整
もするヒモで縛り上げ
た弦楽器。さらに、バ
スケットの形をしたカ
シシーという景気付け
の楽器と、太鼓のばち
のような棒、そして小
石もセットで使われま
す。



シマホン (マテ茶を飲む道具)

クイア(容器)は瓢箪から作られています。ボンバ(茶漉し付きストロー)で温かいマテ茶を飲みます。これは、ブラジル南部のリオ・グランデ・ド・スール州(滋賀県の姉妹州)周辺で使われています。シマホンは家族や親しい友人たちと回し飲みをします。同じマテ茶でも、ブラジル中部では冷やして飲む「テレレ」があります。



マテ茶葉



缶詰類

左 やしの芽
サラダなどにいれます。中央 フェイジャオン
煮豆をにんにくなどで炒め煮したもので、タイ米のようなパラパラの炒めたご飯にかけて食べます。アフリカがルーツの料理。使う豆の種類は、地域によってさまざまですが、ブラジル人の多くはほとんど毎食に食べています。

右 ガラナジュース
ガラナのエキスが入った炭酸飲料。ブラジルでは、どの家庭でも飲まれているとてもポピュラーなジュースです。



コーヒー生豆



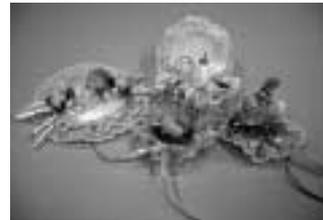
ニョキーラ

イタリア料理のニョッキをつくる道具です。ブラジルにはイタリアからの移民も多く、イタリア料理の影響も大きく受けています。中に、ジャガイモをつぶしたもの、小麦粉、卵、バター(チーズ)でつくった種をいれ、取っ手を回すと底の小さな穴から押し出され、自動的にカットされる構造になっています。



ピアスをつけた 赤ちゃん人形

ブラジルでは、女の赤ちゃんが生まれると、家族や教会の名付け親になった人から、幸せや健やかな成長を願って、ピアスをお守りとしてプレゼントされる習慣があります。



出産祝い返しの マスコット

赤ちゃんが生まれたときに、病院へお見舞いに来てくれた方たちへのお礼として、このようなマスコットを赤ちゃんの名前や生まれた日付などをつけてプレゼントします。青は男の子用、ピンクは女の子用。手づくりされる方も多くいます。また、社交界デビューの意味を持つ15歳の誕生日や結婚式などにもお祝いに来てくれた方たちへプレゼントされることも多いそうです。



ペテッカ(羽根突き)

手を羽子板のようにしてこのペテッカを飛ばすおもちゃ。全国ペテッカ大会も開催されている。



こま



通貨

上から

5 レアル、
2 レアル、
1 レアル紙幣

左から 10セントボス
(新)、10セントボス
(旧)、50セントボス
硬貨

為替レート

1 レアル
およそ 38~ 40円
ただし相場は変動します。



ブラジルの学校は、
3部制。
3月～7月 前期
8月 冬休み
9月～12月 後期
1・2月 夏休み

試験に合格できなかった子どもは、後期終了後、補習を受けます。それでも、合格しなければ、進級することができません。

義務教育は、小中あわせて8年間。高校は3年間。
日本の義務教育は9年間なので、ブラジルの高校を卒業していても、日本の大学に入るためには、1年間日本語学校や高等学校に通わないと大学検定試験が受けられません。

学校の門の前にて

(スクールバスでの通学風景)
7時30分頃



学校の門の前にて

(徒歩生徒単独での通学風景)
7時30分頃



学校の門の前にて

(徒歩保護者同伴での通学風景)
7時30分頃



学校の門の前にて

(ガードマン)
7時40分頃



学校の玄関ホールにてお祈り

7時45分



階段を通過して教室へ

車輪付きのカバンをもつ生徒がたくさんいます。ブラジルの学校は、3部制なので、自分の持ち物は毎日、持ち歩きます。



教室に到着

(ラウラ：10歳)
7時50分頃



教室にて

(ラウラ：10歳)
黒板の下(右)は、滋賀県の姉妹州
リオ・グランデ・ド・スール州の旗(緑・赤・黄の三色)



車での送り

(後期の始業式)
朝10時頃



学校の教室にて先生と



後期の始業式

(ラウラ：10歳)
子どもたちが着ているのは、ポルト・アレグレのサッカークラブチーム「グレーミオ」のユニフォーム
始業式には、保護者も出席しています。



後期の始業式

(ラウラ：10歳)
一列目右から2人目の女の子のTシャツには、日本のアニメと漢字が書かれています。
今、ブラジルでは漢字や日本のアニメなどが大人気。



始業式の後の集合写真

一列目右の男の子がもつカバンには、日本のアニメ「ドラゴンボール」の絵がかかれています。



夕食前のつまみ食い

シュハスコ：カラブレザ（腸詰め料理）
19時40分頃
ブラジルの朝ごはんは、パンとコーヒー、果物といった軽いもの。一日のうちで、昼食がメイン。中には、朝10時ごろから昼食作りをはじめのお母さんもいるとか。
夕食は、昼ごはんの残り物など簡単にすませる家が多いそうです。



台所にてつまみ食い

(ラウラ：10歳)
19時30分頃



スポーツクラブにてフットサルを習う

(ラウラ：10歳)
19時20分頃



学校での演劇発表会

(ルーカス：6歳)



学校での演劇発表会

(ルーカス：6歳)



学校の門の前にて

(学校正面外観)
写真右手に大きなヘルメットのようなもの（緑と白）は、公衆電話です。
ポルトガル語で、「オレレオン（大きな耳）」と呼ばれています。



学校の門の前にて

(学校正面外観：
ガードマンボックス)
写真左手の電話ボックスのような建物は、ガードマンの詰め所です



子どものお誕生日

世界中でそうであるように、子どもの誕生日はとても大切なお祝いの日です。ブラジルでは、1歳の誕生日は特に盛大で、家族や親戚を招いて、子どもの成長を喜びあいます。マンションなどの集合住宅では、パーティー用の集会室があるところも多く、飾りつけをして記念写真をとります。



「ブラジルと出会おう」国土社より
お誕生日の人の歳の数だけ、耳を引っ張ったりします。15歳の誕生日には、ソーシャルクラブでワルツを踊ります。社交デビューの意味があるそうです。



フェスタ・ジュニーナ

(ルーカス：6歳)

6月に行われる庶民的なお祭りで、6月13日の聖アントニオの祭日から24日の聖ジョアンの日を経て、29日の聖サンペドロの日まで続く期間に行われます。たき火を囲んで歌ったり踊ったり、ごちそうを用意してお祝いします。



子どもたちは、麦わら帽子をかぶって、格子模様やストライプなどの田舎風の格好をします。マカドールという指示者がリードする伝統的なダンスや、結婚式にちなんだダンスなど、いろいろな踊りがあります。

フェスタ・ジュニーナの伝統的な食べ物には、ココナッツを砂糖でからめたココア・プレッタ、トウモロコシと牛乳を甘く煮込んだコンジッカ・デ・ミーリオ、ドーセ・デ・パタタ・ドーセというサツマイモのお菓子、ワインとショウガで作る温かい飲み物ケンタオンなどがあります。

「ブラジルと出会おう」国土社より



選挙（投票は義務）に父親と

(ルーカス：6歳)

ついてには、「民主主義は、ここを通る」と書かれています。投票に行かないと、罰金を科せられます。



ピアスをしている赤ちゃん

ブラジルでは、女の赤ちゃんが生まれると、両親や祖父母、教会の神父さんなどが、赤ちゃんの「すこやかな成長」を願って、お守り代わりにピアスを贈る習慣があります。

ちょうど日本で男の子が生まれると「五月人形」女の子には「雛人形」を贈るような感覚だそうです。



NO. 1

リンパワロの東洋人街



NO. 2

ピルパトール・ロドリゴス・アルメイダの街並み



NO. 3

アマゾン州のインディアン



NO. 4

クリチバ市の街並み



NO. 5

リオ・グランデ・ノルテ



NO. 6

ドイツ移民が築いたコファテ

モノと写真から学ぶブラジル

対象 小学 3年生以上

- <授業のねらい> 外国の文化や伝統を尊重し、違いや良さを認め合う姿勢を育む
- <授業の展開> ポルトガル語のあいさつレッスン、ものランゲージ、フォトランゲージ
- <準備するもの> ブラジルボックス（ブラジルに関する小物、ブラジル風景写真教材、地図、国旗、ワークシート等）

授業の流れ

1) ポルトガル語のあいさつレッスン

友達同士、男性同士あるいは、女性同士のあいさつの仕方を紹介してもらい、みんなで練習をします。



Bom dia.（おはよう） Boa tarde.（こんにちは） Boa noite.（こんばんは）
Oi, tudo bem?（お元気ですか？）
Tudo bem, obrigado/obrigada.（元気です。ありがとう。）

男性同士は、がっちりと握手をしながら、あいさつをします。
女性同士や、仲の良い人同士は、両頬にキスをして、あいさつをします。

2) ものランゲージ

各班にブラジルに関する小物を配布します。

参加者（生徒）に、「それが何なのか？」「何でできているか？」について話し合い、意見をまとめるよう伝えます。

ワークシートを活用するなどして、班での話し合いの結果を模造紙などにまとめます。協力して、みんなの意見をまとめることは、国際理解教育のねらいのひとつであり、この授業の中でも、とても大切な過程だと考えています。



各班の代表者に、話し合った内容を順に発表します。



例えば、クイア（マテ茶を飲む容器）については、

楽器・花瓶・帽子立て・お酒を呑む容器・
香辛料を漬すための道具 など

たいへん子どもたちの発想力豊かな楽しい回答が聞かれました。また、よく観察していたようで、意外に瓢箪でできていることを見抜くことができる子どもたちが多かったです。

ブラジルボックスにつなげるアクティビティ (外国籍住民の状況を知る)

滋賀県総合教育センター (教員研修所) 15年経験者研修「国際理解教育体験活動」より

<ねらい> 滋賀県に暮らす外国籍住民の現状について、日頃抱えている固定概念や先入観を見つめ直し、正しく理解するとともに、地域の学校に通う外国籍児童生徒の置かれている状況についても認識を深める。

流れ ブラジルボックスを使う前に、県内の外国籍住民の状況について、クイズ形式で進行しました。

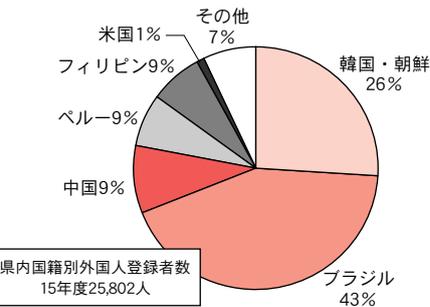
問い 1. 滋賀県の外国人登録者は、県民何人に1人の割合でおられるでしょう。
一番多かったのは、約100人に1人という答えでした。中には、200人以上と感じておられる方もいて、参加者の住んでいる地域等によって、かなり意識に差があることがわかりました。正解を聞いて、驚かれた方が多かったです。

正解：滋賀県の人口 138万人
県内外国人登録者 25,802人
53.5人に1人が外国人 (H15末統計)



<ラインナップ>
左端を0、右へ行くごとに数字が大きくなる横軸と考えて、自分が答えだと思ふ数の位置へ移動し、並ぶことで答えてもらいました。
他の参加者の考えも一目瞭然というメリットもありました。

問い 2. 県内外国人登録者を国籍別に分けると、どこの国が一番多く占めるでしょう。
ヒント：中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジル、ペルー、アメリカの中から選びましょう。



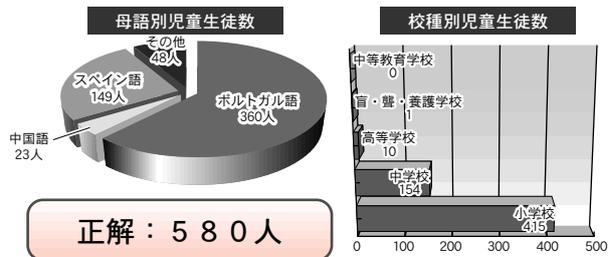
この質問についても、参加者の住んでいる地域等によって、答えが分かれました。滋賀県の特徴として、外国籍住民の43%がブラジル出身者であることが説明されました。

正解：ブラジル

問い 3. 県内に日本語指導が必要な外国人児童生徒は、小・中学校に何人いるでしょう。
ヒント：県内の小・中学生は、約12万人

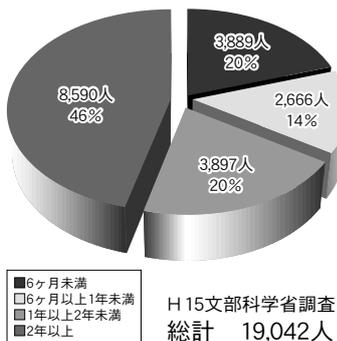
この数字は、調査回答者の主観によるものなので、実際の状況がどこまで反映されているかには疑問が残ります。また外国人学校、不就学児童生徒の数は入っていません。

日本語指導を必要としているのは、大半が、南米出身の子どもたちであること、また校種別児童生徒数を見ると、彼らの進学の難しさが浮き彫りになってきます。



正解：580人

問い 4. 在籍期間別に外国籍児童生徒の割合を見ると、2年以上の長期滞在型の人とは全体の何%でしょう。



正解：46%

大半が、定住傾向にあることがわかります。外国籍の子どもたちはもはや、一時滞在者ではなく、地域に暮らす仲間と言えるでしょう。

最後に、ファシリテーターの川辺裕子先生からのメッセージが伝えられました。

「外国籍の子どもたちと接して学んだことは、『アイデンティティ』と『コミュニケーション』でした。日本の子どもたちにとって多様な文化や生き方を知ることとは、

発見 **自分を豊かにする**
共鳴 **人間理解を深める** ことにつながります。

「国際理解教育は、現在の外国籍住民の状況を正しく理解した上で、教師自身が明確なねらいを持っていないと、“薄っぺらい”だけのものになってしまいます。国際理解教育を実践される場合には、『これを伝えたい』という思いが必要だと思います。」

<ねらい> およそ100年前にブラジルへ移民した日本移民の当時の生活について知るとともに、現地での日系人について、また現在、日本で暮らすブラジル人の方たちの生活や彼らを取り巻く状況について、ゲストからお話を伺い、理解を深める。

研修の流れ

- 1) 事前説明をせずに、各班に写真を1枚ずつ配布し、それぞれ作品に題名をつけてもらいました。
- 2) 各班より、題名を発表。
- 3) 製作者がつけられた題名の発表とブラジルと日本のかかわりについて説明。
- 4) 現在、日本に暮らす日系ブラジル人 前田オルガ豊子さんに、ブラジルと日本で経験したこと・感じたことをお話していただきました。



「私たち日系人は、ブラジルにいるときも常にマイノリティーでした。日本に来て、自分のルーツである母国に戻ってきたと考えていたのですが、日本でも、ブラジル人だと言われ、『一体、私は何人なのだろうか』と思い悩まされました。この日系移民の折り紙作品に出会い、改めて私自身のダブルなアイデンティティを見出せたように思います。また、このように今、滋賀県にもたくさんの外国籍の子どもたちが、地域の学校に通っています。こうした子どもたちが、どこに住んでいても自分らしく生きていける社会になることを願っています。」

5) ふりかえり

参加者がワークショップを受けて、感じたこと、考えたことを一部ご紹介します。

日本との違い（物質的にも生活文化的にも…）があるのだから、その子を理解していくために、その子の背景を理解していかなければいけないと感じました。

ブラジル日本移民の移民当時の苦労はよく聞くが、今は日本でその逆のことが起こっているということに改めて気づかされました。

ブラジル移民の話から、違う国で生きていくことの不安、差別を感じなければいけないことを知りました。また今、日本へ来ている外国の人の思い、苦しみ、悲しみをどう自分たちが受けとめ、捉えていくのが大切だと感じました。

ブラジルへ移民した人たちが、生活を工夫し、物を作っていったことを学び、今の日本人にどれだけそういうことができるのだろうかと思った。今は何でもお金を払えば手に入るが、自分の手で作り上げていくということが、いかに大変ですばらしいことが学びました。

ブラジル人講師のお話を間近で聞くことができ、日本は、国際社会の中でどういう考え方で生きていかなければならないか、自分なりに見えてきました。

現在学校での国際理解教育が、英語活動に傾きがちな傾向があるが、今日のような演習や講話は大変役に立ちました。

ブラジル人講師のお話を聞いて、切実な生の声だと感じました。担任している子どものことを、もっとよく知るべきだと思いました。

今まで、ワークショップ、国際理解教育というけれど、なんだか漠然としていてよくわかりませんでした。でも、今日はっきりと形になった気がしました。目からウロコです。

<ねらい> 4年生に転入してきたブラジル籍のB君。言葉が覚えられないこともあって、友だちとのトラブルも多かった。こうした中で、B君の立場に立って考えることができるよう、この学習を通じて理解を深める。

授業の流れ

1) ポルトガル語での自己紹介

ゲストティーチャー 奥村ルシア克子さんがポルトガル語で自己紹介をされました。子どもたちは、「何言っているのか、わからん～」とようになっていました。

2) ものランゲージ

モデル授業（P1 1参照）と同様にグループに分かれて活動を行いました。B君は、奥村さんのアシスタントとして、正解の発表をするなど、いきいきと活躍してくれました。

3) フォトランゲージ

モデル授業（P1 2参照）と同様に、ブラジルのさまざまな風景写真を見せるアクティビティを行った後、今度は、日本移民の親子4代の顔写真が写っている新聞を見せながら、移民について説明をしました。

「この写真のように、B君のおじいちゃんか、ひいおじいちゃんは、日本人でした。100年ぐらい前に日本から船で1ヶ月半以上かけてブラジルへ行ったんです。そして、おばあちゃんと結婚し、お父さんやお母さんが生まれて、結婚をして、そしてB君が生まれたんですよ。」



4) 外国籍の子どもたちの気持ちを代弁

「もし、お父さんやお母さんから、明日から仕事のために、急に外国へ行くことになったと言われたら、どんな気持ちがしますか？」と問いかけられました。

子どもたちは、「いやや。」「行きたくない。」と素直な気持ちを発していました。

「そうだね。言葉も何もわからないところへ突然行かなくてはならないのは、誰だって嫌だよ。B君も実は、そうだったの。この学校に来る前は、ブラジルの学校へ通っていたから、本当は日本に来たくなかったの。でも、お父さんたちの仕事のために、来なくてはならなくなっちゃったんです。」

「私が最初にポルトガル語で話をしたけど、みんな、わかった？どんな感じだった？何言っているのかわからないよね。つまらないよね。そう、B君は、毎日、そういう状態なんですよ。だから、B君のそういう気持ちを理解して、助けてあげてほしいな。」

子どもたちは、とても素直に奥村さんの説明に聞き入っていました。

次のページで、この授業を受けた子どもたちの感想を一部ご紹介させていただきます。

今日わたしたちは、ブラジルボックスという勉強をしました。ブラジルの物やブラジルの事。おもしろかったし、楽しかったです。そして、とてもいい勉強になりました。一番うれしかったのが、あめをもらえた事です。あと、なんとなく一番いいなあと思った、お話は、B君はすごいと思うお話がわたしは、きに入りました。ブラジルに住んでいて、きゆうに日本に行くというふうになって、そして、日本の小学校に来て、日本語も、わからないし何もかも分からない生活、たいへんだったと思います。でもB君は、この小学校に来て、初めての日でも、とっても明るくて、笑顔で、すごいなあと思います。

わたしだったら、日本に住んでいてきゆうに、外国に行くという事になり、外国語もわからないそんな何もかも生活で、たぶん、そんなに明るくて、笑顔ではないと思います。だから、B君は、すごいと思います。だからわたしも毎日笑顔で、明るくいたらなあと思います。笑顔！ 明るく！ 元氣！

この3つの言葉で、毎日勉強や習い事など、楽しくできたらいいなあ！がんばります！

ぼくはブラジルのことをいろいろ知りました。もの当てゲームでないが、なんなのかわかりませんでした。弓にしている楽器は、いい音が聞こえました。

こまを回すとき、こまにひもはまけたけどまわせませんでした。

ぼく100年ぐらい前日本人がブラジルに人がいっぱいいたのを初めて知りました。

最後にあめをもらって、友達の家でたべました。食べたらラムネみたいにくずれていきました。けど、あまくておいしかったです。

いつかブラジルに行きたいと思いました。

ブラジルボックスで見たものは、どれもめずらしい物ばかりでした。B君のひいおじいちゃんか、おじいちゃんが日本人だというのをきいてびっくりしました。でもB君が日本よりきれいな所についてうらやましく思いました。

大人になったら、B君にブラジルについていつてもらいたいです。

教員からのお手紙より

先日は、ありがとうございました。

子どもたちも大変喜び、とりわけB君の生き生きとした顔が、心に残りました。

誕生日をあのようにみんなに祝ってもらっていたことを忘れずに、なんとか日本でまっすぐ伸びてほしいと思います。

そのために、なんとか力を貸していきたいと思っています。

今日、ブラジルのことを教えてもらいました。まえまでは、ブラジルのことぜんぜんしらなかったけど、たいけんをして、よくわかりました。B君もたのしそうだった。B君のすんでいたところは、雪がふらないときいて思いました。「B君は、日本でみた雪がはじめてなんだな。」と思った。ブラジルでつかっているものももってきてくれたり、わかりやすくはなしもしてくださいました。おもしろかったです。またこうゆうことがあったらやりたいです。「たのしかったー」

出前授業を受けた子どもたちの感想を紹介します。



『ブラジルボックス』をみなさんに知っていただくために ブラジル人講師とともに出前講座を行いました。

派遣先 滋賀県立総合教育センター「15年経験者研修『ブラジルボックス ものランゲージ』」
実施日 平成16年11月16日(火) **対象** 小学校教員 54人
講師 川辺裕子さん(湖南市立三雲小学校教員)、安中シルレイさん(湖南市日本語指導員)

派遣先 守山市立守山南中学校「人権学習」
実施日 平成16年11月17日(水) **対象** 中学1年生 270人
講師 奥村ルシア克子さん(彦根市外国籍児童生徒相談員)、田尾弥生ロザーネさん(彦根市国際交流員)

派遣先 滋賀県立総合教育センター「15年経験者研修『ブラジルボックス 日系移民折り紙展より』」
実施日 平成16年11月18日(木) **対象** 小学校教員 57人
講師 北川謙治さん(栗東市立栗東西中学校教員)、西濱智美さん(野洲市立中主中学校教員)
前田オルガ豊子さん(近江八幡市外国人相談員)

派遣先 湖南市立三雲公民館「ブラジルのことばと文化の講座」
実施日 平成16年11月18日(木) **対象** 一般市民 5人
講師 喜多真理子さん(湖南市職員)

派遣先 湖南市立石部南小学校「モノと写真から学ぶブラジル」
実施日 平成16年11月26日(金) **対象** 小学4年生 62人
講師 田尾弥生ロザーネさん、安中シルレイさん

派遣先 愛知川町立愛知川東小学校「国際理解教育『ブラジルについて』」
実施日 平成17年1月13日(木) **対象** 小学2年生 77人
講師 奥村ルシア克子さん、田尾弥生ロザーネさん

派遣先 マキノ町立マキノ北小学校「国際理解学習」
実施日 平成17年1月17日(月) **対象** 小学3、4、6年生 31人
講師 田尾弥生ロザーネさん

派遣先 高月町立古保利小学校「国際交流活動『ブラジルを知ろう』」
実施日 平成17年1月28日(金) **対象** 小学1～6年生 129人
講師 奥村ルシア克子さん、野田妙子さん(元教員、グルポ・イベ)

派遣先 八日市市立八日市南小学校
「総合的な学習の時間 発見 ワールド『モノと写真から学ぶブラジル』」
実施日 平成17年2月1日(火) **対象** 小学5年生 171人
講師 奥村ルシア克子さん、田尾弥生ロザーネさん

派遣先 甲賀市立貴生川小学校「総合的な学習の時間 世界の国を知ろう～米を通して世界を見よう」
実施日 平成17年2月15日(火) **対象** 小学5年生 72人
講師 安中シルレイさん

派遣先 大津市立中央小学校「社会 世界の中の日本」
実施日 平成17年2月8日(火) **対象** 小学6年生 23人
講師 田尾弥生ロザーネさん

派遣先 湖南市立三雲小学校「社会 世界の中の日本」
実施日 平成17年2月10日(木) **対象** 小学6年生 118人
講師 奥村ルシア克子さん、田尾弥生ロザーネさん

派遣先 木之本町立木之本小学校「国際理解教育」
実施日 平成17年2月14日(月) **対象** 小学1～4年生 227人
講師 奥村ルシア克子さん、田尾弥生ロザーネさん

派遣先 八日市市立八日市北小学校「総合的な学習の時間 国際理解教育」
実施日 平成17年2月16日(水) **対象** 小学4年生 35人
講師 奥村ルシア克子さん

派遣先 高月町立高月小学校「ブラジルの人と仲良くなろう」
実施日 平成17年2月18日(金) **対象** 小学3、4年生 97人
講師 奥村ルシア克子さん、野田妙子さん

貸出先 近江八幡市立桐原小学校「総合的な学習の時間」
実施日 平成17年2月23日(水) **対象** 小学4年生 94人
講師 右田マリアナさん(近江八幡市教育相談員)

貸出先 安土町立安土小学校 総合的な学習の時間「いろいろな人との交流」
蒲生郡社会科主任研修会
実施日 平成17年3月8日(火) **対象** 小学5年生 33人 教員8人
講師 地域在住のブラジル人の方 2名

参加型学習で学ぼう 多文化共生「ブラジルボックス&レヌカの学び」

「ブラジルボックスを活用した授業」

ファシリテーター

平野知見さん、奥村ルシア克子さん

(国際理解教育研究会 Glocal net Shiga所属)

ブラジルボックスを活用した模擬授業を紹介しました。

モノから学ぶ多様な文化を持つブラジル

ラウラちゃんの日から学ぶブラジル

ここでは、ラウラちゃんに焦点を当てた一日の生活風景写真を用いた授業を紹介いたします。

まず、ラウラちゃんの学校生活の様子を写真で見せながら、ブラジルの一般的な学校生活について解説を受けました。(2・3部制であること、保護者が送り迎えすること、留年があることなどを説明。)



ケーススタディー

「では、ラウラちゃんがもしあなたの学校へ転入してくるようになったら、どうしますか？」

設定 ラウラちゃん(10歳)が急遽、ブラジルからあなたの学校へ転入してくるようになりました。学校には、通訳はいません。さて、学校の対応、クラスの対応、あなた自身は、どのように対応しますか？

この設定のもとに、各グループでディスカッションを行い、模造紙を使って意見をまとめました。

[グループディスカッション後の発表から抜粋]

<行政の取り組みとして>

通訳ボランティアを探す

辞書の購入

教育システムの違いから考慮し、何年生に編入し、日本語指導をどうするかを相談する

<学校の取り組みとして>

辞書、指差しポルトガル語(市販)で当面はしのぐ地域での受け入れ例などについて情報収集する

通訳ボランティアを探す(地域、企業等の人材から)

ポルトガル語の学習

日本語指導について検討する

教員側で迎え入れるプロジェクトを編成する

トイレなど校内にポルトガル語の標示をつける
全校でブラジルボックスを使ってブラジルを知る

違う学年にどのように紹介するか相談する

保護者への対応補助

教師も生徒も自分が外国に行ったなら、どうしてももらいたいかを考える機会をもつ

5年生以上のクラスには漢字があふれているので、ひらがなのプリントを準備する

<学級での取り組みとして>

ラウラちゃんの不安を取り除くよう努める

自国のことをお互いに出し合う

言葉の壁が最大の壁だろうから、笑顔で対応するよう心がけ、暖かく受け入れる

食べ物の好き嫌いについて確認する

学校内の案内をする

近所の子どもが迎えに行くように配慮する

絵カードや指差し(日本語・ポルトガル語併記)をつくり、コミュニケーションが取れるよう工夫する

クラスで言葉をつかわずにできるゲームやブラジルの遊びなどを調べて一緒に遊ぶなど、打ち解けやすい雰囲気をつくる

簡単なあいさつなど、日常のポルトガル語会話を日本人生徒が覚えるよう働きかける

子どもたちにも転入生の出身国について、文化の違いなどについて教える(ブラジルボックス等を使って)

転入以前から、クラス内で受け入れ態勢を整える

最後に、平野さんは「各班の発表を聞いて、以下のような3つのキーワードにまとめることができると思います。

居場所づくり

母国語でのあいさつや教室の標示を作るなど温かく迎える雰囲気づくり

地域づくり

保護者と学校や教育委員会などの関係を円滑にするための環境づくり

人材づくり

通訳などのボランティアとの連携や教員への研修など。すでに、豊中市では先に日本で暮らし始めている外国籍の子どもたち自身が、後続の子どもたちを家庭教師するなどサポートするグループがあります。

私自身が大阪で多文化共生保育研究プロジェクトに携わる中で感じることは、『知らないことは、いちばん怖い』ということです。みなさんも新しいことに出会ったときには、『“気づき”を“築き”に』変えていってもらいたいと思います。」と締めくくられました。

午後の部

「レヌカの学び」

ファシリテーター

土橋 泰子さん

(開発教育協会企画推進委員、レヌカの学び製作者)

使用教材「レヌカの学び 自分の中の異文化に出会う」

ネパールからの研修生 レヌカさんが、母国ネパールと研修先の日本で考えたことが18枚のカードになった教材。

学びは、いつでも、どこからでも。
そんな感覚でレヌカを体験してもらいたい。

各グループに18枚のカードが配布されました。

「自分の考え方に近い、自分もそんなふうを感じるわ、というカードを1枚選び、そのカードをグループのメンバーに見せながら、自己紹介をしてください。」

次に、レヌカさんについての説明文を読みました。

「この18枚のカードにレヌカさんが考えたこと、したこと、感じたことが書かれています。カードは、それぞれ対になっていますので、どちらが、日本で、あるいはネパールで考えたことをグループでディスカッションしていただきたいと思います。その際、なぜ、そういう答えになったかについて話し合いながら、カードを分けていってくださいね。」

ある程度、意見が決まってきた段階で、別のグループの仕分けを視察した後、最終的にカードを9枚ずつに分けました。



「それでは、レヌカにとっての事実はどうだったのか？カードを裏向けて見てください。裏は、3×3のパズルになっていて、日本の絵とネパールの絵がそれぞれできあがる仕掛けになっています。」

「このアクティビティで重要なのは、『学びの戻り』です。つまり、学びを継続させるということです。このアクティビティを小学4年生に実践した例では、実践後、誰からの指示があったわけではなく、自分たち自身でインターネットや知り合いのネパール人に話を聞くなどして、情報収集をはじめた学級がありました。このクラスは、日頃から想像力を鍛える活動ができていたのでしょうね。」

各グループがカードを分けられた頃、各カードについて、土橋さんより解説がされました。(抜粋)

私の夢は 主婦

レヌカさんは日本に来て、豊富な電化製品をみて、生まれて初めて主婦になりたいと思ったそうです。これだけ家事に割く時間が少ないなら、仕事と両立できると思ったからです。まだまだネパールでは、家事労働に費やす時間が一日のほとんどを占めるため、結婚後も仕事を続けるのは不可能であるという現状があります。

野菜を良く選んで買うわ

レヌカさんは、見た目、虫がついていないのを選ぶ、価格(安い・高い)、鮮度、産地、大きさ・重さ(キャベツを買うときは重いとき等)などが、野菜を買う基準です。

ある日、日本のスーパーでジャガイモを買おうとしたとき、レヌカさんは買うことができませんでした。なぜ買えなかったのか？実は、レヌカさんの野菜を買う基準では、包装された野菜を買うことができなかったのです。ネパールでは、ひとつずつ、自分で手にして、においをかいで選ぶのに、日本では袋づめ、パック詰めになっていたの、それができなかったのです。

このエピソードを聞いた日本の生徒は、スーパーに行って、なぜ包装しているのか、日本の流通のしくみなどについてインタビューに行った子どもたちがいました。

軽い風邪でも仕事をする

大事な会議などがあるときに休むと、他の方に迷惑がかかると日本では考える方が多いですね。レヌカさんも日本での研修中に、38度以上熱があったときも、まわりがそうなので、研修先に行きました。

しかし、ネパールでは、熱があったり、咳がでたりすると、休むように言われます。それは、「軽いうちに治してください。症状が重くなると2, 3日休むことになってしまうから。」という理由と、「子どもたちにうつさないで下さい。ネパールでは、医療体制が整っていないので、お医者さんに行くことも難しいし、薬も入手しにくいから。」です。

乳児死亡率が日本の26倍であるという事実などを大人がどんなに伝えても、なかなか日本の子どもたちには実感として伝わりません。「かわいそうという見方をしてはいけない」というのは、むしろ助長するだけです。むしろ、子どもたち自身が疑問を見出し、調べることで初めて知ることになります。自発的に、「そういう厳しい状況下でも、そういう判断で生きているレヌカさんはすごいね」という感想ができたことは大切だと思いました。

ご飯を食べる前には手を洗う

日本に来て必ずと言っていいほど、ご飯を食べる前には、手を洗うと教えられたのに、実際にはだれも周りの日本人が洗わない現実を目の当たりにした。逆に、日本では箸を使うのに、何故手を洗うのか？と質問を返したほどでした。

このエピソードを受けて、箸の文化について調べた小学生がいました。そして、世界の8割の人たちが手で食べるという結論を見出し、「以前は手で食べる文化が野蛮だと考えていたが、そうではなかったのですね。」という感想にたどり着いた子どもがいました。

製作者の意図

この教材を作るときに、大切にしたのは「違和感」です。「対 もの」、「対 ひと」、「対 外国」、「対 日本人」などに違和感を抱いたものを大事にしたいと考えました。

国際理解は“国”理解ではなく、“個”に焦点を当てたい。私が造ったことばで、国境ではなく「人境」を感じるものにしたい。Globalや Localと自分とのかわりなどについても考えてもらいたいと思いました。

このアクティビティを行った後、以下のことについて、ふりかえりを行うことが大切だと考えています。

話し合いの中で、違う意見が出てきたときに自分はどういう行動にでたか？

グループ決定しなくてはならないときに、自分の意見と違う意見になりそうなときにどのようにアプローチしたか？

自分の意見が受け入れられなかったとき、どうしたか？

この過程こそが、自分が異なる文化（考え方も含めて）に触れたとき、ふりかえることで自分を理解することができると思います。



「子どもたちに、『人はどこにいますか？』と問いかけると、『地球！』といった答えが返ってくることがあります。実際には、『ここにいます。』と答えてくれる人は本当に珍しいです。つまり、自分を認識していない人が少ないんです。」

あるとき、外国の方を教室に招くことがあり、自分は間違っていたと感じたことがありました。彼らゲストに、国を背負わせていたと感じたのです。

私たちが、外国の方をお願いする内容は、「踊れますか？言語を話してください？」といったことが多いです。もちろん、それも悪くはない。悪くはないけれど、それだけで終わってしまっただけで、せっかく来てくれた方は、「私でなくてもよかったのではないだろうか？」という疑問を感じつつ自国紹介をし続けていると、だんだん空虚感・無力感を感じてしまうようです。

そうした虚しさを感じ始めていた留学生の会で、このアクティビティを実践した後、彼らが自分の学びをつくりたいと感じるようになりました。そこで、彼らのメッセージがこもったオリジナルの学びを作ってみました。

ネパール（カトマンズ）、ブラジル、バングラデシュ、マレーシア、タイ、韓国、インドネシアからの留学生と教材作りを行いました。この過程が実に面白かったので、ぜひみなさんにも身近な人たちとつくってもらいたいと思います。改めて、日本を見つめ直す機会にもなりますよ。

これは、ブラジルの留学生がつくったカードの一枚です。日本かブラジル、どちらのことだと思いますか？

部屋をみんなできれいにすると とってもきれいになる

実は、これはブラジルでのことだそう。留学先の日本の大学で、サークルの部屋を年末大掃除するという案内が貼ってあったので行ってみたら、散らかっていたものを脇に山積みしただけで大掃除だと日本人学生が言ったのだそう。ブラジルでは、大掃除というと、みんなで協力して部屋の中のロッカーや机を一旦廊下に出して、きれいに掃いて水拭きをすることをイメージするので、たいへん驚いたそうです。

小学2年生から70代の幅広い参加者で活動した際のこと。このカードについて、70代の参加者が、昔は日本もそうだったと話されました。一年に一度は畳を屋外で干して、掃除をしていたものだと。そのとき、孫世代がはじめて、自分たちの文化を知る機会になったということがありました。

異年齢でワークショップを体験すると、ディスカッションがたいへん盛り上がるというたいへん良い例でした。

全体会ふりかえり

ファシリテーター

川崎 功さん

(国際理解教育研究会 Glocal net Shiga 会長)

使用教材 「日本人って誰？」

ERIC国際理解教育センター レッスンバンクより



これから、いろいろな人物について紹介されたカードを使って活動をします。時間に限りがありますので、オープンエンド(問題提起型)になると思います。

配られたカードの人物を、日本人だと思うか、そうでないと思うかについて、国籍法にとらわれずに、「日本人って？」誰かについて、自分の考えで決定するアクティビティを行いました。

各グループから、何を基準に「日本人」かどうかを判断したかについて発表してもらいました。

法律、国籍法

インスピレーション、直感

見た目で見断するか、生活基盤で見断するのか迷っている。

出生地、親権の問題、帰化しているか

生活実態が日本にあるかどうか、本人の意識の問題

国籍 日本国籍を取得した人は日本人

生まれたところ、両親の国籍 どの国の国籍法にもとづくのか

本人に聞かないと、わからない。むしろ、あえて国籍で分けなくてはならないのか？と疑問を抱く

皆さんは、フィンランド出身のツルネン・マルティンさんをご存知でしょうか。彼は、27歳のときにキリマンジャロの代議員を務め、現在は、参議院議員として活躍されています。

彼は以前、ご自身のことを「在日フィンランド人」と自己紹介されていましたが、今では「フィンランド系日本人」とされているとされています。

私も含めて教員の世界では、「在日の子ども」と呼んでしまうことがあります。多文化共生が叫ばれる現在では、「日本人住民」と「外国人住民」ということばも出てきています。

また、家族や隣に座っている方とも、それぞれ自身の考えによるアイデンティティというものには本来異なっているものはずですが、それなのに、私たちは「日本人=単一民族国家」という幻想を抱いているのではないのでしょうか？

いろいろな文化などをもっている人たちを、自分たちの足元すら見つめられていないのに、(何人であるか?)判断しているのではないだろうか？

「日本人というのは、何なのか？」についても一度よく考えていかないと、多文化共生社会の中では、そろそろ行き詰まっていくのではないかと考えています。



今日一日のWSをふりかえって

実際のところ、国籍法に基づくと、このアクティビティはスパッと明確に分けることができます。しかしながら、日本に1,000人余りおられる無国籍の人たちなどは、どうなのでしょう？ブラジルに暮らしていて、日本国籍を持っている人たちなどは、どうなのでしょう？

ちがいを豊かさにつなげるために

国際理解教育ワークショップ

地球市民を地域とともに育てよう Part 3

～ 違いを尊重できる感性をそだてるために ～

「違いを尊重できる感性をそだてるために」と題して、6月13日(日)ピアザ淡海にて国際理解教育ワークショップを行いました。

ワークショップでは、南アフリカの子どもたちを支援するNGO「ヒランガニ・ンゴタアンド」を主宰するトーマス C. カンサさんのお話を聞きました。「ヒランガニ・ンゴタアンド」とはズールー語で「愛とともに、手を携えて」という意味です。生まれたときから、心と体に、不当な差別と暴力を受けながらも、豊かな感性を育て、今、日本から南アフリカの子どもたちへ車いすや文房具などを送るカンサさん。私たちはつい、「国際理解」というと「異文化」や「違い」に目がいきますが、国、文化にかかわらず「人」と「人」との出会いなのだと、気づくことができたお話でした。

「教育は子どもたちの翼になる

～ アパルトヘイトを乗り越えて～

トーマス C. カンサ

南アフリカでは「自由」がなかった

南アフリカで、日本人はどんな立場だったか知っていますか？『名誉白人』日本人は、アジア人ではなく特別に白人としての待遇を受けていました。

当時、私たちにはまったく自由がなかった。好きな人と結婚できない、好きなところに住めない、読みたい本も読めない。公園に行けばベンチには『白人専用』の文字。交通機関や店にも「黒人と犬はお断り」の看板が掲げられていた。だから、5歳の子どもでも差別のことは教えられていた。そして、どんなことにも耳を傾けた。身を守る方法もすべて耳から学んできた。

私の村の学校は、貧しかった。電気も水道もなく、自分たちでトイレを作らなくてはならないほどだった。しかし、そんな村でも「あたたかさ」があった。私は10人兄弟だったが、村の大人たちはどの子も自分の子として接していたし、だれもが家族のような関係だった。みんなで、なんでも「分かち合い」ながら生活していた。

学校には、大学を卒業した先生はほとんどいなかった。でも、気持ちは東大卒以上だった、神様のような存在だった。先生は、いろいろなものを私たちの心に残してくれた。そして、先生は抱きしめてくれた。だから、私は学校が好きだったし、学校に行きたかった。こんなふうに、貧しい村の生活の中にも「豊かさ」があった。

11歳の経験

父の遣いで、初めて一人で都会へ出かけることになった。うれしくて、家族や村中の人たちから、服や靴を借りて、おしゃれしてかけた。

朝、駅に着くと、前の車両は白人用、後ろは黒人用と分かっていた。黒人用の車内は、身動きひとつとれないほどのすし詰め状態。都会の駅でも、出口は白人・黒人別々だった。

街の市場では、品揃えのすばらしさに驚いた。

村には図書館はなく、紙(印刷物)は神様のように扱われて、机や戸棚の上に大事に保管されていた。母親は字が読めなかったが、父親は1週間でも同じ新聞を読み返していた。それほど貴重なものだった。

当時の南アフリカでは、黒人が読んではいけない本がたくさんあった。市場で「power of black」という本を買った。突然、「政治家か!」と言われ、白人の警察官に捕まってしまった。皮肉にも、それが生まれて初めて白人に手を触れられた瞬間だった。いつも黒人に対してひどいことばかりしている白人は、冷たい人間だと思っていたが、実際に腕を掴まれたときには同じ人間で、「あたたかい」感触だったことに驚いたのを覚えている。

子どもころ、食事のときに机の脚を蹴飛ばしたりしようものなら、母親に、「もうお皿を置きなさい。ものを大事にできない人が、兄弟を大事にできますか。兄弟を大事にできない人が他人を大事にできますか。」とたしなめられたものだったが、連行されたとき、警官がバンバンと机やイスを叩き、蹴飛ばすことにまず驚いた。そして、私は警官に叩かれた。警官は笑いながら、私の体中を叩き続けた。

白人警官に全裸にされ、何時間も棒で体中をつつかれ、両手両足を縛られ、「黒人は嫌いか?」「昨日、人を殺したか?」といった内容の尋問をされ、「YES」という返事しか許されない状況だった。

「生きることはすばらしい」ことに、まがいはない。しかしあときは、心身ともに受ける辛さに、神様に「命を取り上げて下さい」と祈った。苦し紛れにトイレに行きたいというと、廊下に置かれた金属性の汚いバケツのところに連れて行かれ、そこで用をたせと、言われた。しかし、何も出なかった。「何も飲んでいないから出ないのだろう。それなら、たくさん水を飲ませてやろう」といわれ、宙吊りにされ、また別のたくさん水の入ったバケツの中に頭をモップのように何度もつけられた。本当に心臓がドキドキと胸うち、死んでしまう...と思った。まだ、叩かれるほうがましだと思った。





長い虐待的な尋問のあと、ようやく解放されたが、すでに村へ帰る電車は終わっていた。家まで30キロ以上あったが、ただただ恐ろしくて、金メダリストよりも速いスピードでひたすら走り続けた。

家を出るときは、兄弟の中から都会へ行く役目を自分に与えてくれたことを誇らしく思っていたが、家に着いたとき、どうして私に行かせたのかと、親を恨んだ。家族には、その日何があったのか話すこともできなかった。

何日か学校を休んだあと、先生にだけはあの日のことを打ち明けた。先生は1週間、毎日家まで迎えに来て、一緒に学校まで通ってくれた。私は自分の経験を、学校の人に話した。受けた傷は、どんなにやさしくされても治らない。でも、私はあの日のことを許した。「許す」ことは、人間の力だ。

多感な年頃になり、アパルトヘイト反対運動に身を投じるようになった。ただ、家での教育は、「どんなことがあっても、あなたには人間の命を奪う権利はない」と教えられていた。そして、なんとかパスポートを入手して、イギリスへ亡命した。

日本の玄関で

初めて日本に来たとき、空港の入国審査で「*alien(エイリアン)」の列に並ぶことには、たいして抵抗がなかった。入国管理局の職員が「Welcome to Japan!」といいながら、欧米人に笑顔で入国のスタンプを押している姿を見て、すばらしいと思った。なのに、自分の番になったら「なぜ日本に来たのか?ビザは?所持金は?」という質問を受けた。まるで能の面を付け替えるかのように職員の表情が変わったのには驚いた。これが、初めて感じた日本での差別だった。

徐々に日本での生活になれてきて、はじめて日本の差別「部落」について知ったとき、民主主義といわれる日本で、300年も前からの差別が残っていることに驚いた。自分たちの仲間さえも受け入れられないのに、何故アフリカ人の自分が受け入れてもらえるのだろうかと思った。

* 空港におけるalien(エイリアン)の表記は外国人にとって、「エイリアン=地球人でない」というイメージがあり、現在は「foreign passport」となっています。

「心をたがやす」

さて、「国際的」というのは、「ことばの違い」「肌の色違い」のことを言うのだろうか?「受け入れ、育む心」のことではないだろうか?英語をしゃべるだけでは、「心」はたがやせないのではないだろうか?

私は、大阪の平野区の牧師さんとともに、近所の公園で生活している人々に、炊き出しをしている。その公園には、さまざまな人た

ちがいる。彼らが住むブルーテントはきれいに掃除されているし、夜はダンボール集めなどしてちゃんと働いているし、犬や猫も飼っている。

ある日彼らから、その公園に中学生が真夜中に花火をしに来る、という苦情を聞き、見に行った。だがその日、私が帰宅した後に子どもたちがやってきて、飼っている犬をかばおうとした人の胸元に花火をなげ入れ、大やけどを負わせたということがあった。

ある75歳の快活なおじいさんがいた。子どもたちに、自分の子どものように大切にしていた犬の頭に石を落とされ、殺されてしまった。その事件以後、おじいさんは老人施設に入り、すっかり気力を失ってしまった。75歳の涙は、たまらないものだった。

進学するために、頭をたがやすことも確かに必要だろう。だけど、頭をたがやすだけではいけない。心をたがやさない。心をたがやすのが「教育」だ。

お父さんやお母さんは、子どもの持っているものから始めなくてはいけない。だれしも、自分の子どもが完璧ではないとわかっているはずだ。たとえ、子どもが30点しか取れなかったテストを持って帰ってきても、その30点の意味を考えてあげてほしい。決して、取れなかった70点から話し始めてはいけない。

子どもには、間違っ権利がある。そして、学ぶ義務がある。子どもの権利条約に書かれている。

今日は学校の先生も来ていますね。では、学校の先生に聞きます。「金曜日、この一週間に子どもたちに何を残しましたか?」「月曜日、生徒たちは先生のことを待っていると思いますか?」「先生自身は、子どもたちが来ることを楽しみにしていますか?」

中学生のために私が書いた文章があります。私は、これをいつも心に留めています。最後にみなさんに紹介します。

人生の価値は、他人に何をすることによって変わります

だから平和に暮らしたいと思う人は、

隣人が平和に暮らせるように手助けしなければなりません

よい暮らしがしたいと思う人は、

他人がよい暮らしができるように手助けしなければなりません

幸せに暮らす人は、

他人が幸せを見つげられるように手助けしなければなりません

それは一人ひとりの幸せが、

みんなの幸せに固く結びついているからです

トーマス C カンサ

南アフリカ共和国生まれ。黒人というだけで不当な差別と暴力を受けた子ども時代を経てアパルトヘイト(人種隔離・1989年廃止)政策反対運動に身を投じ、その後イギリスへ亡命。84年に来日した。現在、大阪で英会話の講師をしながら、南アフリカの子どもたちを支援するNGO「ヒランガニ・ソゴアンド」を主宰する。女性と子どもたちの地位向上に貢献する活動が認められ「99年度シチズンオブイヤー」を受賞。著書に詩集「友よ、君には何が見える」「マイ・ハンサム・アフリカ」など。

ホームページは<http://www.5f.biglobe.ne.jp/zuluboy/>

第2部

「ひょうたん島問題

～多文化共生をめざして～

講師 同志社女子大学教授 藤原孝章 さん

「ひょうたん島問題～多文化共生をめざして」とは、移民や外国人労働者が増えつつある現代社会の課題と問題解決への考え方を多文化共生の観点から体験的に理解するねらいでつくられたCD-ROM教材です。

今回、この教材を使ったワークショップをこの教材の製作者である藤原先生に実践していただきました。

ひょうたん島の説明をするよりも、早速CDを見ていきます。CDを見ながら架空の島の状況を説明。ひょうたん島という島に、それ以外の2つの島から人々（カチコチ人、パラダイス人）がやってきて、移住をしてきて、そこで巻き起こるトラブル、社会問題をどういうふう考えていくかという枠組みになっています。

お配りしたカードに、それぞれあいさつの仕方が書かれていますので、それにしたがって、会場内の方たちとあいさつをしてみましょう。どうぞ。



ちょっとお遊びみたいですが、お辞儀型のあいさつ ひょうたん人のお辞儀のあいさつというのは、一応現実の世界では、東洋的文化圏で私たちがやっています。それから、握手というタイプ、これはパラダイス人がやっています。これは欧米系とかもう少し広い範囲です。抱きしめたりするタイプもあります。我々はちょっと苦手ですが、ごく普通にされているところもあります。ハグというのでしょうか。カチコチ人の両手を挙げるあいさつは、マサイの人たちはやりますね。だから、どこかの国の民族のあいさつにこういうところがあ

ると比べられるし、ここから世界の人たちのあいさつを調べようということで、特に小学生ぐらいだとできるのかなと思ったりもします。

きょうは、ロールプレイで教育をやります。ひょうたん教育、ひょうたん学校です。

問題の状況は、よく働くカチコチ人と、もともとのおんぴり屋さんで昼寝もちゃんと取る習慣のあるパラダイス人というそれぞれの文化圏の特徴を持った人たちが、それぞれ子どもがひょうたん学校へ行ったときに、文化的ないろいろな摩擦が起こってくるという状況です。そして、特にパラダイス人の子どもたちは、昼寝をする習慣があるので、昼寝をしたり、あるいは性質としてそんなに勉強、勉強と言わない。そして、ひょうたん学校の勉強についていけなくなったという状況であります。

こういう背景があって、働き者のカチコチの人はひょうたん島の学校を出て行くわけです。学校の問題で、パラダイスの人たちは、自分の民族集団を持っている。カチコチの人はできるだけひょうたん教育の中で、自分たちの文化を受け入れてほしいと、経済力を背景に主張するようになったというのが大体の状況です。

そこで、この問題は、パラダイス学校という別の学校をひょうたん島につくるのか。パラダイス人は、子どもたちが自分たちの文化を受け継いでいってもらうためには、パラダイス学校が必要なんだという訴えを起こしました。けれども、それに対してテレビ局が取り上げたのは、これはひょうたん教育の危機なんだということです。

それでは、ロールプレイをはじめましょう。ひょうたん教育委員会、それからパラダイスの学校建設運動の人、カチコチ人の経済界の方、学校教員、4人の役割を決めてください。パラダイス学校をつくるんだという一つの問題に対して、それぞれの立場で考え方がどのように違うかです。

4人で話し合ってくださいなのですが、こういうのをロールプレイといいます。ただ、より実り豊かな話し合いをするために、作戦会議をします。同じ役割の人同士が集まって、この人物なら、こ

ういう発言をするだろうというその人物の肉付けをしてください。

では、5人ずつのグループで始めてください。皆さんにメモをとっていただいて、どういう発言をしていくと、自分たちの主張がより通りやすいか。相手を説得しやすいか。そういう観点で話し合いをしてください。大事なことは、それぞれがそれぞれの立場になりきってロールプレイをしていたくということです。

各グループからのロールプレイ発表

会場A：パラダイス学校の建設で、パラダイス学校の協議会の代表の方とお話をして、その後、カチコチ経済連合会の方が、「パラダイス人学校のお金は、すべてうちが出しますわ」という、ひょうたん島も財政が逼迫しておりますので、すぐに乗りまして「建ててください」というふうに許可をしました。

会場B：こちらのカチコチ人はとりあえず、パラダイス人学校建設のお金は出せない。カチコチ人もだめだし、教育委員会もそれに対してお金は出せない。学校側の教員の方からも、「学校の方では出してもらえないか」と言われたんですけども、教育委員会としては「文化を維持するための教育であって、外国人の方もおられるんですが、ひょうたん島を愛するのならば、ひょうたん島での教育は、ひょうたん文化を受け継いでほしい」ということでした。

藤原氏：教育委員会もいろいろとあるようですね。

ほかに教育委員会の人で立場上、このことに苦労したというのはありませんか。教育委員会というのは、強い立場でもあるけど、責められる立場でもあるという。

会場C：いろんな意見が出て受け入れたいんですけど、パラダイス学校を建てるのはちょっと無理ですが、学校の中で講義をしたりとか、カチコチ語を学んだりとか、まちづくりの文化を学べるような、そういう形で教育をやっていくことはできないのかと言われて、私としてはそれはいいなと思うんですけど、教育委員会としては、お金の面

はやはり難しいなと。

藤原氏：パラダイスの人はいかがですか。結構訴える立場で、何となく圧迫感みたいな、孤立感みたいなのは感じませんでしたか。

会場D：パラダイスとして主張させていただいたのは、「今回これで個別に分かれてしまうのか」という質問があったんですね。「そのままひょうたん島に残る気はあるんですか」ということで、ガンときたのですが、一応、パラダイスとして主張させていただいたのは、「私たちはこの島に住まわせてもらうけれども、まず、力をつけるために、子どものアイデンティティを残させてもらうためにも、まず、一つの場所で勉強をさせてもらいたい」ということをみんなと協議しました。

藤原氏：なるほど。ありがとうございました。

カチコチの方はお金を持っているということで、何となく……実は少数派なんだけれども……というのは、いかがですか。

会場F：お金を持っているというのは、非常に気持ちのいいものです。教育委員会では脅せませんし、パラダイスの人には「無理だろう」とははっきり言えます。教員の方でPTAにいろいろなコースをつくってくれるよう頼むと言われたんですが、「そんなことやらなくてもいい、正教員をどんと入れたる。教育委員会はOKと言うから」とものすごくいい立場にいました。

藤原氏：カチコチ人は、本来は少数派ですが、新興的な勢力ですね。

会場G：パラダイス人と同じ少数派なんですけど、お金を持っているというだけで、同じ少数派として分かち合いたいけれども、ちょっと優越感に浸っていました。だから、現実もそうなんだろうなと思うとちょっと考えさせられます。

藤原氏：割と現実の移民の方の中でも、そういうのは結構ありますよね。

では、学校教員の方は多分引き裂かれる思いをされていたと思いますが、いかがでしたか。

会場H：移民教育も大事だなと思いました。学校教員としては、いろいろな国の文化を受け入れることが大事だと思うけど、今のままのカリキュラムの中では無理なので、変えていいですか、と教育委員会に頼んだのですが、ひょうたん文化を維持するには、今のカリキュラムが必要であるし、教員の方がパラダイス語も向こうの言葉もわからないので、言葉と文化を共有できないし、ボランティアで教えてもらえればと。

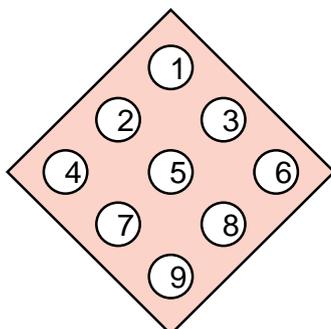
藤原氏：なるほど。今、おっしゃっているのは、現実の日本社会に起こっていることですね。ほかに学校教員の方でジレンマを感じたとか。

会場I：みんな理想論を言っておられるようで、強引に合意をしようという感じがします。何となくお互いが違う。内心はもう別々につくつたらいいのではないのかなという思いもあったり。

それでは、9枚になったカード（P33参照）があります。今度は皆さん、役割から離れていただきます。現実の今の皆さんの問題を踏まえまして、パラダイス学校の問題に対して、9枚のカードの優先順位をつけて並べるとどうなるか、話し合ってください。

その際に、ダイヤモンドランキングはご存じでしょうか。普通並べるのは1番から9番まで順番があると思います。ところが、ダイヤモンドランキングというのは、9枚をダイヤモンドの形にします。だから5段階にします。「一番良いもの」が一番上「一番悪いもの」一番下。「問題が起きたもの」というようなランキングの仕方があります。これをダイヤモンドランキングといいます。必ずしもダイヤモンド型にならなくてもいいです。みんなで話し合ってください。

では、始めてください。



藤原氏：ひょうたん教育委員会のこの委員長の方はこういう立場です。多数派が少数者を同化していく。違いとかその独自のアイデンティティを否定していくタイプです。これは普遍派人種主義なんていう、国家主義、同化主義という立場です。ある意味でいうと、一つの色に染めていく。

ひょうたん教育委員長の立場を一つの価値観として見出したものであります。この優先カードが皆さんのカードにあります。1、2、3番がひょうたん教育委員長が、同化主義を主張する3つのタイプがあります。その同化主義の一番極端なのが3番目です。排除です。同化と排除は極端です。ですから、皆さんが並べられたカードの1、2、3番というのは、比較的下の方に来ていると思います。

それから、それに対して、資料の1のパラダイスの立場は、実は2番の立場でして、差異派人種主義です。これは多数派による同化主義に反対します。少数派の主張するのですが、結構自分たちのところに戻れば、伝統重視とか、共同体重視をします。ある意味でいえば、分離主義ともいわれます。一つの色に染められるのは嫌だけど、自分たちだけは一つの色になってしまうみたいなタイプの立場です。多分皆さんのランクの中では、パラダイスの人は優先カードを見ますと、4番、5番がパラダイスの優先カードです。これは、グループによりますと4番、5番はもしかしたら、真ん中より以上のケース、真ん中に来ているケースもあるかもしれません。

真ん中というのは、一応、消去法でも真ん中にきます。真ん中は、非常にあいまいな、中間という意味と残りのカードという意味がありますので、何とも言えませんが、大体、上下に来ることはないでしょう。ただ、現実には、これからお話ししますが、例えば日系人の社会であれば、日系ブラジル人のためのブラジル人学校とかができていますし、日本人がハワイやアメリカに行ったときは、日本人学校というのがあります。現在の日本は海外の企業の駐在員の子どものために、海外日本人学校がありますね。ですから、ある意味でいうと、それは将来の帰国を前提にしたものであるのですが、そういう意味でいうと、4番、5番の場合は、もしかしたら、現実的に優先的に選択される一つのカードかもしれません。あるいは現在日本では、

戦後からいわゆる在日朝鮮人のための民族学校がありました。ですから、将来母国へ帰るからというのにしろ、民族学校というものをつくるのは、むしろ現実的な選択ということも覚えていただけたらいいと思います。

それから、学校教員の人は、実は3番目の立場なんですね。これは、一人ひとりの子どもを大切するという価値観なので、6番、7番の優先カードですね。いわば、一人ひとりの子どもという、民族の色に関係なく別の自由や人権や個人などを尊重する立場で、それを広く受け入れることかなと思います。6番、7番です。これは割合に上位に来ているのではないかなと思います。2番手グループぐらいに来ていませんか。あるいは真ん中。下の4番、5番に来ているというのは、あんまりないでしょう。

恐らく皆さん、一番多いのは、4番目の差異派反人種主義だと思います。多文化主義の考え方です。違いを謙虚に認めて、少数派の固有文化を擁護する。少数派の集団としてのアイデンティティを認める。3番と違うところが、やはり、個人より集団も大事だろうということで認めていく。そういうレインボー理論という虹色みたいなことです。

恐らく皆さんは9番、8番がトップに来ているグループの人が多いかと思います。それは皆さんのお考え自身がある意味でいうと、多文化主義の考え方に近いんですね。

このひょうたん島は、このようにして4つの立場から発言を作っています。その下の構造モデルを見てください。これはちょっと学術的になるのですが、ひょうたん教育委員長の発言には主張があって、それを正当化する理由があって、それを正当化する価値観があって立場がある。そういうことで作っています。

このように作りましたが、実は文化は、例えば、ひょうたん文化とか、現実的にいいますと、日本文化とか、あるいは中国文化とかよく言います。文化というのは、最近の現況では延々歴史がいくら変わっても、変わらないような技術開発の文化をとらえるという考え方は、最近は薄れています。文化というのは変わるもんだという考え方があります。

ひょうたん島を考えるとときには、それぞれの文

化は、一応議論としてはやっておりますが、例えばひょうたん学校のような学校があって、そこで、少なくとも2世代、3世代ぐらいになると、また違ったひょうたん文化ができるはずですよ。そのように考えていくのが、文化の流れ方としてはいいのではないかなと思います。

現在の日本の国際理解教育でいうと、日本の文化・伝統でいう、非常に実態的な取り方をしています。日本の文化伝統といっても、それぞれの時代に応じて外国の文化を取り入れたり、変わっていつているはずなんですよ。ですから、何を持って、日本の文化・伝統かということ、実ははっきりしないところがあります。ですから、国際理解のバックボーンとして自国文化とか他国文化とかよく対立してとらえて、だから異文化理解なんだ、国際理解なんだという語られ方をしますが、実は文化というのは本来そういうものではないだろう。地域によっても多様性があります。アメリカ文化といっても、もう少し多様文化ですね。日本だって北海道から沖縄まであるわけですから、多様な文化があります。それを一国の文化というように代表することは、なかなかできないのではないかなと思います。

特にこういう移民とか、人々が交流する時代になると、余計に混合するというか、今も国際結婚がありますが、そういう異種混合といいますが、そういう考えのもとで文化というのは、変わっていくととらえた方がいいかなと思います。

次は日本人移民と在日外国人の関連年表です。明治維新から日本の歴史とか海外歴史を見ますと、日本は1960年代までは、移民を送り出す国だったのです。ですから、たまたま現在は経済的にアップアップしている国を受け入れる側の国になっていますが、実は、それはほんのごくわずかな時代のことでありまして、それ以前は移民として日本人は世界各地に移っていたことがわかっています。もちろん、植民地を獲得したりしていますので、開拓移民ですとか、そういうのもありますし、日本に強制的に働きにこさされたという、そういうすべての現在日本の社会の大きな枠組みは、近代100年ぐらいまでできてきているということです。

現在日系ブラジル人の日本に来て定住なり、出稼ぎなりも日本人移民という歴史を踏まえないと

あり得ないことですから、そういうのも含めてバックグラウンドとして、皆さんにご紹介したいと思います。

日本における外国人の登録者数は、不況にもかかわらず増えております。現在2002年末ですから、185万人ぐらいです。減ることはありませんので、例えば昨年末でもおそらく増えていると思います。登録外の資格外活動や調査をしている人は30万人ぐらいだと言われているので、200万人を突破していると思います。もちろんこれは、在日コリアンを含めての数字ですが、そうしますと、日本人は1億2,000万人ぐらいですから、ほぼ50人に1人ぐらいは外国人の方です。20年ぐらい前は100人に1人もなかったと思いますが、そういう意味では全人口の登録だけだと1.45%ですから、もう2%ぐらいになっているのではないかと思います。

それから、国籍別で見ると、特徴的なのは在日コリアンの登録者というのは減っています。これも半世紀ぐらい経っていますし、国際結婚していることもありますし、在日コリアンの人と日本人との結婚も国籍は日本人でも受け付けるようになりました。

急増中なのはブラジル国籍の人です。日系人です。1986年今から20年近く前ですが、わずか2,000人ほどだったのですが、今は26万8,000人ですから、中国、ブラジルというのは、新しく移民してきている人です。オールドカマーとかニューカマーという言い方があります。

それから、国際結婚も増えています。これは父母両系主義を日本が85年に対応しました。それまでは日本人妻は外国人の夫の国籍しか得られなかったのですが、今は国籍も選べるようになりましたので、国際結婚もできるようになりました。国際結婚の場合は、普通の主婦だけではなくて、私は佐賀県にいましたが、例えば、農山村の跡継ぎのために、中国人の女性とかフィリピン人の女性とかを妻にするということがあります。学校ではなかなかしゅうとめが自分の嫁が外国人とは言わずに、子どもがお母さんの文化を学校では認めてもらえなくて、というようなこともあります。したがって、国際結婚というのは、都心部だけではないということもご理解いただいたらと思います。

それから、基本的には、今よりも景気が回復してきました。この前週刊ダイヤモンドでトヨタの会長の経団連の会長ですが、正式にきちんと整理をして外国人労働者を受け入れていく方向でないといけな。そういう時期にきていると書いてありました。

それから、皆さんもご存じのように、女性が将来に子どもを産む数というのが減ってきております。このままいくと、一人っ子がゼロかという感じです。そういう数字になってきておりますので、ある意味でいうと、看護とか介護分野で労働者が不足する。これは統計上出ております。従って、特に日本は経済的にアジアのフリー・トレード・ゾーンです。EUまでいくのは、まだまだ先でしょうが、モノの自由化と人の自由化をある意味限定的にやろうとします。そうすると、今、フィリピン政府からは、介護分野での労働者の受け入れ、それから、タイからはマッサージの人たちの受け入れ等を、そういう要望で交渉に入っていますので、今後減ることはないだろうということです。



それから、世界的には開発途上国は人口が爆発的に多くなっておりますので、アフリカ地域からヨーロッパへ、中南米地域からはアメリカ北部へ、アジア地域は日本に来る。大きな流れは当然あります。それを入国法や移民法などで、制限しているという図式になります。

日系人はなぜ日本で働けるかということ、2世、3世は自由に働けるという日本の入国管理法、難民認定法の決まりがあります。要するに、おじいさんかおばあさんが日本人であれば働けるという法律があります。従って、ブラジルでは出稼ぎブ

法律があります。従って、ブラジルでは出稼ぎブームです。特にバブルのころは出稼ぎが多くなって、今はちょっと不況ですが、景気がよくなってきているので、愛知県とか静岡県の東海地方では、トヨタ関連の自動車の工場ではブラジル人の人たちは雇われています。滋賀県は交通の便がいいというのでIT関連の工場がたくさん建っていますので、滋賀県にも多いですね。滋賀県のIT関連工場働く外国人の国籍の人は、ほとんどブラジル人です。

ですから、本当にひょうたん学校の問題は起きているんです。私は富山県の例しか調べていませんが、富山県でも一番多い外国人はブラジル人です。ちょうど、義務教育年齢に達している子どもが、大体270人ぐらいいます。そのうち、実際に就学しているのは、半分ぐらいです。後の半分は学校に行っていないのです。ほぼ同じような傾向がどの県もあるのではないかと思います。つまり、外国人の場合、日本の教育の法律では、義務教育年齢の子どもに対して教育を受けさせる義務はないのです。

特に小学校はまだ学校に入れても、中学校になると日本語ができないので、どうしても中学校の方が行かないケースが多いです。社会問題にもなっています。ちょうど青年期ですから、問題行動があったりします。これは地域の大きな課題になっています。

きょう、滋賀県の学校教員の方が多いので、実際自分のクラスの子どもにもそういったことがあるんじゃないかと思います。何が問題かという、日本語で授業を受けることです。コンビニで買い物をするという程度は生活言語といいますが、そういうのは割合とわかりやすいのです。おつりをもらう練習とか、みんなやっていると思います。ところが、教科書の日本語は学習言語です。生活言語と学習言語は違います。例えば、英語でもそうです。我々、学習英語はいいですが、生活英語はだめですね。でも、アメリカなどは、生活英語はできるけど、学習英語がいる新聞がなかなか読めない。その場合、学習言語の獲得ができないので、特に中学では大変だという問題があります。従って、愛知県や静岡県のブラジル人がたくさんいるところでは、ブラジル人学校というのがで

きています。

先ほど言いましたように、やはりお金がかかります。私立学校扱いです。だから、日系ブラジル人の一部の人しか行けません。ですから、そのブラジル人学校にも行けないし、日本の学校にも行けないという若者が多くなっている点があります。それが教育の問題に関してはあります。

ですから、ある意味でいうと、緊急避難的にブラジル人学校のような高等学校のような学校がもう少し必要かもしれないですね。あるいは、日本の学校でも放課後ポルトガル語でポルトガル学校のようなことをするか、ボランティア団体やNPOとか、国際協会とか……、お金があればいいのですが、多文化主義はお金がかかるということなことであります。

あと、同じように、中国の国籍の人で、同じ日系中国人ですが、旧満州、中国の残留日本人のおばあさんかおじいさんを持つ日本人であれば、つまり2世、3世であれば、日本に南米の日系人と同様に日本におられるという制度がありますので、中国帰国者の子どもが日本の学校で学んでいるケースもあります。大阪などは結構多いようです。

そういう問題があって、ニューカマーの人たちの教育の問題、企業の年金や保険の問題、結構多くの問題があります。それから、公団住宅などに住んでいますので、ゴミ出しルールとか、そういう問題もあります。

それから、こういうニューカマーの問題を考える場合に、在日コリアの人が非常に戦後苦勞されており、もちろん、戦前も食糧難などありますが、人権の問題は無視して考えることはできません。

1980年ぐらいまでは外国人といえば、9割以上は在日韓国、朝鮮人の方だったので、在日の方の問題を指していました。したがって、いろいろありましたように、戦前は臣民だったんですが、実は参政権のない時代に限るということは、朝鮮半島の人は帝国臣民であるにもかかわらず、政治から除外されていました。まさに植民地政策そのものでありますが、そういうことがあったり、開戦後には200万人ぐらいの人が、60万人ぐらいに減って、その後ちょっと増えて今現在はほぼ62万5,000人という数字で推移しています。

ある時期は日本の国籍も認められていました。

サンフランシスコ講和条約までは日本の国籍がありました。けれども、いろいろ戸籍法とか国籍法とか何かややこしいことがありまして、実質的には国民としての権利がほとんど除外されていました。

サンフランシスコ講和条約ができたときに、国籍問題が起きまして、在日の方は外国人になりました。本来個人個人に国籍を選択する権利があるはずなんですが、そういうことを抜きに、それは通達によって一方的に外国人になりました。ただ、在日コリアの人は、いずれは帰ると考えておりましたので、選択の自由が与えられたとしても、外国人としていたと思います。いずれにしてもそのときに、悪名高い、非常にもめた指紋押捺制度も導入されました。

以後、南北朝鮮などの問題もあるのですが、1982年の難民条約が締結されました。これは、日本はインドシナ難民の受け入れをするために、この条約に加盟して発効したんですが、難民条約は受け入れた難民に関しては、外国人も日本の国内に住んでいる人も同じような待遇を与えなさいという条約です。内国民待遇というのがあるらしいのです。そうしますと、それまで、外国人待遇にしていた在日コリアの人も同じように、内国民待遇をしないといけなくなりました。1982年は第2の黒船などと専門家は言っています。皮肉ですが、インドシナ難民の受け入れによって、わずかに数千人が居住して、外国人に対する権利が変わりました。それまで、差別されていた公共住宅や年金とかで国籍条項の撤廃を勝ち取りました。

それから、85年から国籍法が改正されまして、父母両系主義、国際結婚が増えました。それから、日系人が働くことが許可されたのは1990年です。したがって、専門家の方がいうと、日系人とはいえ、日本は一部だけですが就労を許可しているので、一部は外国人労働者を受け入れているということを指摘する専門家もいます。

それから現在は、指紋押捺制度は完全に撤廃されました。ただし、登録証は絶対に見せないといけません。最近特に外国人の方は自転車に乗っているだけでも警察に「見せなさい」と言われます。治安の問題も一つあります。特に、警察はそのようにしていますので、常時携帯義務があります。

やはり、多文化共生のまちづくりという考え方になりますと、外国人の人は住民なんだという、考え方。多文化共生の場合は、もちろんお金がかかるんですけど、住民として外国人の方、外国人の子どもも日本人の子どもと同じように取り扱うことが大切であります。これは、世界人権宣言と子どもの権利条約を含めて、義務教育は外国人には適用されないと言いつつも、子どもの権利条約からいえば、当然外国人であれ誰の子どもであれ、学校教育を受けるというのは子どもの権利ですから、当然学校に来られる条件にしていかなければいけないんです。

そういうことで、ひょうたん島というのは、このように今起きている問題は架空の社会ですが、考えることができるという点が一つ。こういう提示の資料を調べていただいたりして、単に役割学習で面白かったねというのではなくて、それぞれの発言の背景には、こういうバックグラウンドがあって、そのバックグラウンドに例える社会的な状況は、このようになっているということも、考えていただけるとありがたいなと思います。

それから、日本には何十ヶ国の方が滞在していますので、それこそ何十ヶ国に対応するようなゲームが必要ですから、やはり、ボランティアとかNPOとかNGOとか、そういう人たちの働きを抜きに考えることはできないのではないかなと思うので、多文化共生センターはじめ地域で活動されている団体の働きは非常に大きいのではないかなと思います。

ひょうたん島はその後、リトルパラダイスという、ある地域にパラダイス人だけが住んでいます。ここから、ひょうたん人もカチコチ人も出ていく。それぞれの地域のリトル何とかができていくという状況で、たとえば、パラダイス人だけが暮らしていていいだろうけど、パラダイスの伝統は復活して、女性差別が出てきたり、伝統的な民族社会の形がでてきたりで、ひょうたん島全体の基準からして、これでいいのだろうかということ。現実のヨーロッパなどでは、割合とそういう地域ができあがっていますが、そういう問題を考える枠組みになっています。

最後にひょうたんパワーの地域というのは、それぞれお互いにこういう民族、自分たちの集団の立場ばかり主張していると、実は、ひょうたんパワーの源である森林がどんどんなくなっていった、何かそれぞれ森林を伐採するような行為に出ます。そうすると、水を蓄えるための森林がなくなっていった、水が枯れていったひょうたんパワーがなくなってエンジンが止まって、沈んでしまうということになります。

集団が自己利益だけを追求すると、目に見えない共有財産がなくなってしまうのではないかという終わり方をしています。では、ご質問がありましたら、お受けいたします。

最後に、この教材をつくる時に、ご指摘を受けたのですが、パラダイス人の人はちょっと色が褐色になっています。色が褐色の人は、何かのんびり屋さんという固定観念を与えかねないのです。ある人種に特有なことを言うってしまうようなステレオタイプを植えてしまうような、その点だけちょっとご注意していただきたいと思います。

<p>① ひょうたん文化の理解をすすめ、ひょうたん人としての自覚を高める。</p>	<p>② パラダイス人学校は認められない。</p>	<p>③ 外国人はひょうたん教育から排除する。</p>
<p>④ 外国人のために国際学校をつくる。</p>	<p>⑤ ひょうたん学校とは別に、パラダイス人学校をつくり、パラダイス人教育をすすめる。</p>	<p>⑥ すべてのひょうたん学校に、外国人担当の補助教員を配属する。</p>
<p>⑦ ひょうたん学校の教師になろうとするひょうたん人学生に対して、外国文化理解の単位を必修にする。</p>	<p>⑧ 時間割外で、カチコチ文化やパラダイス文化を教える「国際理解教室」を設ける。</p>	<p>⑨ ひょうたん学校のカリキュラムを改善し、時間割の中に多文化学習コースを設置する。</p>

全体でのふりかえり

ファシリテーター：

湖南省立三雲小学校教諭 川辺 裕子 さん

川辺氏：今、滋賀県では、約80ヶ国の方が来られていまして、2万5,800人という外国の方がおられます。私が前にいた小学校でも、ペルー、ブラジル、中国の方の子どもたちが通っていました。多いときには、学級に4人の外国の子どもたちがいたという状況もありました。異なる文化の子どもたちとかかわる中で、さまざまな違いがあることを気づかされたことがありました。今日の話にも何度も「違い」というのが出てきたのですが、きょうは、この違いをポイントに皆さんといろいろと話し合っていきたいと思います。

異なる文化を持つ子どもたちや大人も含めて、そういう人たちと出会って、皆さんが見えてきた違いとはどんなものがあつたでしょうか。先ほどのひょうたん島にも出てきていましたが、たとえば、生活様式が違うとか、言葉が違うとか、風習が違う。挙げていくと、きりがなくいろいろな違いを感じるんですね。その違いと出合ったときに、初めはすごく戸惑いがあるんですが、その違いを発見するときに、驚きがあつたり、素晴らしい自分の内面を変えてくれるものにもなってくる気がします。

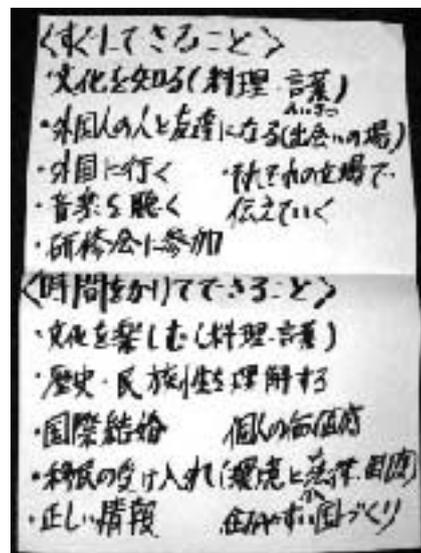
けれども、先ほどのひょうたん島のワークショップにも出てきましたが、この違いというものが、ときには人の交流を妨げるものになってしまう、トラブルが起きたり、わだかまりが生じてしまったりすることもあります。私たちの学校現場でもすごくそれは感じていて、たとえば日曜日に運動会を行ったときに、なかなか参加していただけない。なんで学校の行事なのに来ないのかという一方的な考え方があつたのが、実際にたくさんの方と話していくと、そこに全然、生活習慣が違つたりとか、教会に必ず日曜日に行かなければならないんだとか、そういうことが見えてきたということで、本当にいるんなことを学ばせてもらっています。

きょうのテーマは、こういう違いはトラブルとか、摩擦といったものとして考えるのではなくて、それぞれの豊かさにつなげていくために、もう少し考えていこうではないかということを思っています。

内面もそうだし、先ほどの藤原先生がおっしゃっていた多文化共生という世界を築いていくというのも、この豊かさをつなげていくと思うのですが、私たちが豊かさをつなげるために、すぐにできることはどんなことがあるのだろうか。それから、時間をかけて、違いを豊かなものに変えていく方法は何かないのだろうかというプランを見せていただきたいと思います。

「きょうからすぐにできることは何だろうか」ということと、「時間をかけて少しずつ変えていったらいいものは何だろうか」ということを、思いつくままにグループ毎に書いていただきたいと思います。

各グループによるディスカッション



(一例)

川辺氏：いろいろ見せていただいたのですが、まずは、受け入れることと理解の違いは何だろうか、こだわっていたところもあつたのですが、後ろのチームの方、受け入れと理解のことをお話してくださいませんか。

会場A：実は、そのことばかりではなかったのですが、違うことを言ってもいいですか。

「違い」があつてしまいがちだということから話がスタートしたんですが、国際理解という話になると、いつも「違い」から始まってしまう。違う食べ物を食べてみようかということから始まる。でも、そうではなくて、同じことを、共通するものを一緒に感じたりした方が、やはりカンサさん

がおっしゃったような1対1の人間同士のつきあいが始まるのかなと思いました。違いにピンと来ないというところから話をしていました。受け入れと理解はあとにします。

川辺氏：ありがとうございます。違いから始まることに、逆のマイナス面が出てくるのではないかというのと、そうはわかっているんだけど、何か肌で違うなと感じてしまうことがあって、それをどうしたらいいんだろうというのを、出されていたチームがあったのですが、どうですか。

会場B：やはり違いを意識するとなったときに、私が表現して言ったのは、カンサさんがおっしゃったみたいに、違う方と握手したときに、自分の中にぎょっと思う気持ち、それをなくさなければならぬということではない。それを乗り越えて、次に個々の違いを豊かさにして、それを受け入れていくにはどうしたらいいかということがテーマですが、答えは見つかっておりません。

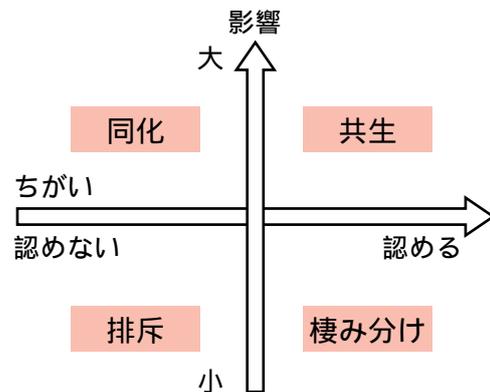


川辺氏：それに関連するかもしれませんが、何か違うと思ったときに、この背景は何だろうと思うことが大切だという話を、どこかのチームが話していました。違いの背景を知ることが、まず、その自分の感覚を変えていくことにつながっていくし、そのあとに、根気強くつきあっていくことを書いたグループもありました。まさしくそのとおりだなと思いました。

制度上の生存、環境、法律などをもっと変えていくことを働きかけていく、そういう運動も必要ではないか。後は、先ほどからカチコチ人のときにも、「お金の力ってすごくあるよね。でも、金

より人や」と書いているグループがあって、やはり仲間づくりとか、ネットワークづくり、まず、きょう学習したことを、家の人に話してみる、近所の人などにしゃべっていくことから始まっていくんじゃないかなということも出ていました。

まだまだ素晴らしいプランが出ていたのですが、ここで終わらせていただきたいと思います。



ここに表がありますが、先ほど藤原先生がおっしゃられたときに、何か共通しているものがあるなと思って持ってきた表です。違いを豊かさにつなげていく社会はどんなのかなと考えたときに、これは共生社会というものがあります。表の見方はお互いの違いを認めないというベクトルから認めるというベクトルへ、それからお互いが影響をしないというベクトルから、お互いが影響をしようというベクトルへとなっています。多数の力あるものが、相手を力で押さえつけてしまう「同化社会」とか、少数派を取り除いてしまう「排斥社会」とか、それから、それぞれが関与しないコミュニティをつくって棲み分けていく社会を目指すのではなくて、まだ私たちはそれぞれがお互いに影響をしようとしてよりプラスになって、社会を変えていく「共生社会」を目指していきたいと思っています。

いろんな価値観や書き方をされている先生方や、ほかのいろんな立場の方たちが1日を共有して、まず、意見を交流することが、この「共生社会」をつくっていく第一歩だと思います。まず、きょう学んだことをお互いに、また、それぞれ皆さんのやり方で実践いただけたらなと思います。

きょうは、ありがとうございました。

アイスブレイキング 紹介

ワークショップには、参加者の積極的な参加が必要不可欠です。ですから、最初に最も重要なのが、参加者の緊張を解きほぐして、自由に発言や参加ができる雰囲気をつくることです。

ここでは、いくつかのアイスブレイキング（「氷を砕く」の意）のアクティビティを紹介します。

いずれも自然と参加者に笑顔が浮かび、場を和ませる楽しいものや、みんなで力をあわせる準備運動のような体を動かしてリラックスさせる方法です。

[ミラーゲーム] （相手の真似をするゲーム）

二人一組になって、全体に輪になり、内側・外側が交互に相手の真似をします。

例)

朝起きて、身支度を整えるところをやってみよう！
鏡をふく、顔を洗う等の動作をまねしてみる等。



[スカルプチャーゲーム（彫像ゲーム）]

ミラーゲーム同様、参加者全員が2重の円になり、内側と外側の人ペアになります。

外側の人「芸術家役」、内側の人「粘土役」になります。

芸術家は、粘土を思い通りに形付け、オリジナル作品をつくりまします。

完成したら、展覧会！

外側の円の人たちは、ゆっくりと円をまわりながら、他の芸術家の作品を鑑賞します。

つぎは、役割交代をして、先ほどと同様にすすめます。

[並んでみよう！]

第1ステップ 「お誕生日の日付順に並んでみよう！」 ただし、会話は禁止！

第2ステップ 「電話番号の下4桁の数字の小さい順番に並んでみよう！」 手も口も使わない！
（参加者は躊躇しながらも、自分の足を使って、番号を伝え合いました。）

第3ステップ 手も口も足も使えない！さて次ぎは、どこを使うかな・・・！？
（実は、まだ実践経験なしです）



アクティビティ実践例紹介

これまでに、開催したワークショップの中でご紹介したアクティビティ（参加型学習活動）です。手法はもちろんのこと、参加者の感想からも学ぶことがたいへん多いので、参考にしてください。

仲間づくり

[STEP 1]

参加者同士で、共通することを見つけて、仲間になるというアクティビティ

例) 血液型、ジーンズをはいている、メガネをかけている 等

誰とでも仲間になれることを体験する。

[STEP 2 (おでこに色シールを貼って)]

参加者に目をつぶってもらい、全員のおでこに色シールを貼る。

参加者に一斉に目を開けてもらい、「会話をせずに、仲間に分れてください」と指示をする。

参加者の中には、他の人とは違う色のシールを貼られた人や、2枚貼られた人がいる。

おおよそグループに分かれたら、参加者に「何を基準にして分かれたか？」と質問する。

多数派・少数派グループそれぞれから感想をきく。(ふりかえり)

参加者のふりかえり(感想)

だれにも呼んでもらえなかった。自分がどこに所属しているのかわからない寂しい気持ちになった。

(同じ色のシールの人がいなかった人の感想)

所属感を求める意識の強さを感じた。(同じ色のシールの人がいなかった人の感想)

ずっと違う国に住んできたので、一人の方が自由に感じるし、誰かとつながりたかったら、いつでも共通のものを見つけ出せると考えている。(在日中国人の方の感想)

ファシリテーターにシールを貼られたということは、自分たちで色を選べることができなかったということと同じ。なのに、仲間はずれになる人ができてしまったというのは、生まれながらの肌や髪の色によって、区別されるということと同じだと考えられるのではないか。

人間には弱いところがある。たったシール1枚で、人に寂しい思いをさせてしまったり、楽しい思いにさせたりすることがある。

マイノリティの気持ちを体験できた。

ファシリテーターの感想

確かにおでこに色シールを貼りましたが、私は「仲間に分かれて下さい」とだけ指示しました。なのにみなさんは、こんな小さなシールを貼られただけでそれを基に仲間意識を持つと同時に、仲間はずれにして悲しい思いをする人を生み出してしまいました。これが、何を意味するかについて、もう一度考えていただければと思います。また、このアクティビティを中学校で実践したときに、シールの色、位置などでも排除していました。私たち大人の世界より、たいへんシビアな世界にいたことがわかりました。

世界30カ国で家庭の調度品をすべて屋外に出してもらい、その家具・生活用品と家族と一緒に撮影した写真教材。

注) 参加者には、写真がどこの国であるかは知らせずに活動する。

一人ひとり、気に入った家族の写真を手にとって、グループの人たちのものを比べる

行ってみたい国の順番に並べ替える

2年間ホームステイしたい国は？

参加者からの意見(抜粋)

アルゼンチン・・・暖かそうで、家の壁、家具もおしゃれ。電化製品が家族より後ろに写っている
 といのは、それほど貴重品ではないということ 経済水準がわかる

サモア・・・日本ではできない狩猟生活が体験できる

イラク・・・アフリカは若い頃だとしても良いかも、イスラムの国は女性にとっては暮らしにく
 そう、寒い国は遠慮したい、消去法で残った

ブラジル・・・写真が明るい、文化水準が整っている、サッカーなど2年間はじけられる

一生暮らしたい国は？自分の家にもある(共通する)ものは？...5つ以上見つける

ベトナム・・・自然な幸せそうな笑顔、親戚あるいは近所の人たち
 が写っているので、助け合いの生活ができるようだ。

サモア・・・平和に暮らしている。クウェートの写真にはモノが溢
 れているが、このような環境では物欲がそれほどない
 のでは...

タイ・・・ものと心の豊かさに着眼した。温かさを感じた。

飼っているにわたりの卵やバナナ、水田があり、家族で
 生活してゆける豊かさを感じた。表情の豊かさ

ブータン・・・モノの豊かさはないが、自給自足の生活ができる。公害の被害などはない。



フォトランゲージを体験した感想

グループで話し合っているうちに、「自分が行ったときには・・・」など脱線した話が聞けて、おもしろかった。

自分が選びそうもないところを、グループのメンバーの見方を聞くうちに、違う見方ができるようになった。

日本の写真を選んだ人がいなかった。日本を選ばなかった理由を自分なりに見つめなおす機会になったように思う。

日本の物の溢れかえりようがわかった。

2、3日なら、1年ならという期限付きの条件で、選ぶ国が変わることがおもしろかった。

住んでみたい国を選んだ理由で聞かれたのは、先進国の文化水準があるからという意見があったが、エチオピアなどの途上国にも彼らの文化があることを見落とされていたことが、少し残念だった。

難民や戦争の写真など、1枚の写真からいろんなことが考えられたり、学べたりする。また、それを話し合うことで、いろんな考え方があることを知ることができるアクティビティでした。

「世界がもし100人の村だったら ワークショップ」

(国際理解研究会アレンジ版)

<講師> 国際理解研究会 林 良昭さん 他4名

アイスブレイキング

「世界の人口は、さて何人でしょう?」という質問に対して、

1. 43億人 2. 63億人 3. 73億人 と書かれたプラカードに、
参加者それぞれが答えだと思うところへ移動しました。

情報カードを、一人に一枚ずつ配布され、カードに書かれた内容にしたがってこれ以降のアクティビティを行なうと説明がされました。

あなたは、100人村の1人目の住民です
あいさつ ニイハオ 中国語
あなたは、15~64歳の大人です
アジアに住んでいます
中所得者層(ふつう)です

「すわってください」という意味です
あなたは、女性です

<情報カード一例>

1. 声を出して、同じあいさつをする人をさがそう

グループができれば、人数の多い順に、何語のグループかを聞いてみると、
多い順に 中国語、英語、ヒンディー語・ウルドゥー語・スペイン語 …となり、約半数の人たちが仲間を見つけることができない、いわゆる少数派であることを説明されました。

また、今世紀末までに、少数派言語が多数派言語に代わられるなどして、言語の種類が急速に減りつつあるという現状を紹介されました。

2. 年齢別に分かれてみよう

全体を100人とするなら

世界は今、

こども 30人: 大人(15歳から65歳)70人 (そのうち65歳以上は7人)

日本の現状は、

こども 15人: 大人 85人 (そのうち65歳以上は17人)

日本が少子高齢化社会ということが顕著にわかるだろう。

また一方、アフリカなどでは、内戦やHIV感染等の影響で、大人が少なく、逆に15歳以下の子どもたちが人口の半分以上という国も多いということを説明されました。

3. 住んでいる地域別に分れてみよう

情報カードに従って、あらかじめ大陸面積ごとに用意されたひもの輪に入るアクティビティ

北米 2人 アジア 18人 アフリカ 2人 ヨーロッパ 3人
オセアニア 0人 南米 2人 (合計27人参加者)



大陸ごとの人口密度を実感することができました。

4. 地域ごとに富の分配（バスケットの枚数で表す）をしよう

まず、地域ごとの経済力にあわせたバスケットの枚数を配布。

(たとえば、北米 32枚 アジア 25枚)

全員に配布する前に、まずグループの中で一番裕福な国に経済力にあわせた枚数を渡す。

(たとえば、北米大陸ではアメリカ役の人に32枚中30枚を渡し、アジアでは日本の役の人に25枚中14枚を渡す。そして、残りを他のアジアのメンバーが分け合う)

どのようなことを感じたかを、参加者にたずねる

「一人で食べきれないほどのバスケットを持っている人がいる一方で、一枚を何人かで分けなくてはならない人がいることに驚き、富の偏在の実態について、体験しました。」

5. 非識字体験をしよう

「
」というプラカードをみせる。

27人中4人のカードには、意味が書かれていなかったので立ちすくんでいたが、残りの23人のカードには「すわってください」という意味だと書かれていた。

世界の識字率について説明。

続いて、



「さて病気になりました。薬を買ってきてください」という指示があり、参加者は前に用意されたペットボトル3つから1つを選び、飲んでみました。

ペットボトルに書かれていた表示は：

पानी विष औषधि

左から 水・毒・薬 と書かれており、中身は水・塩水・砂糖水 だったので、毒を選んだ参加者は一様に、あまりの塩辛さに顔をゆがめていました。途上国で字の読めない人たちが、薬と間違っ農薬を飲むといったことが実際に起こっていることを紹介し、非識字は命にも関わる問題であると、識字の重要性について説明されました。



6. クイズ形式のアクティビティを体験

会場にU字型に並べられたイスに、参加者は事前に配布された予想シートに自分が記入した回答をもとに、数の少ない方から多いほうへ一列に座るというアクティビティ。

質問 100人の地球村には、次のような人が何人いるでしょうか？

- 栄養が不足している人
- 完全に住む家がない人
- 安全な飲み水が手に入らない人
- 自分の車を持っている人
- 自分のコンピュータを持っている人

回答： 18人 2人 17人 14人 2人

なぜ、その数字を回答したかについて、参加者へのインタビューを交えながら回答を解説されました。



統計を用いたアクティビティを用いる際には、数字を集約することで、統計の数字などに矛盾が生じてしまうことがあるので、補足説明の必要があることについても説明をされました。

(参加者の感想)

味覚や触覚を用いる体験の後で、パワーポイントで視覚的に確認するところが参考になった。数字だけでなく、輪の中に入ったり、バスケットを分け合ったりして、自分の問題としてひしひしと伝わってきた。実感が湧いた。

以前から、「世界がもし100人の村だったら」は気になっていたのですが、読むだけではなく、薬(毒)を飲んだり、バスケットをわけたり、こんな体験ができるのかと再発見しました。

文字を読めないことの怖さ、ことばが通じないことへの不安

後半の活動もクイズの答えを数字の順に座るということで、答えがわかる以外に周りの人のとらえ方もわかりおもしろかった。

富の差は開くばかりですが、逆に生きていく力は反比例しているように思います。これをどのように理解していけばいいのでしょうか。

カードを利用することで、互いに話を交し合うことができるということ。楽しみながら、現状を知る。またそれについて考えることができるのがすばらしい。あと、最後の“メッセージ”も大切だと思い、上手く生徒たちに伝えたいと思った。

国際理解研究会は、青年海外協力隊経験者や国際理解に興味のある者が集まり、国際理解を広く世間に広める際の中心となる人の養成や、自己啓発を促す勉強会などを行なっています。

国際理解研究会ホームページ <http://www.joca.or.jp/ob-kai/krk/toppage2.html>

[貿易ゲーム]

くじ引きでチームを決め、各チームに製品を作るために必要な道具・材料などが入った封筒を渡し、一定時間内に型紙どおりの製品をつくり、それを商社へ持ち込み換金し、「より多く稼ぐこと」がゲームの目的であると説明し、ゲームをスタートする。

約40分後の各チームが稼いだお金（最終結果）

通貨単位は架空のK(クー)

Aチーム	14,400K	Eチーム	6,100K
Bチーム	3,900K	Fチーム	10,700K
Cチーム	7,700K	Gチーム	1,700K
Dチーム	13,000K	Hチーム	2,000K



他のチームと交渉しながら製品を作る

ここで、今回のゲームについて説明がありました。

封筒には、はじめから以下のとおり、グループ毎に違う内容のものが入っていました。

チーム	人数	封筒に入っていたもの
Aチーム	3人	すべての型紙 鉛筆 5本 紙 1枚 はさみ 2本 お金 2,000K
Bチーム	4人	丸形の型紙 鉛筆 2本 紙 2枚 はさみ 1本 お金 500K
Cチーム	5人	鉛筆 1本 紙 20枚 お金 100K
Dチーム	3人	すべての型紙 鉛筆 5本 紙 1枚 はさみ 2本 お金 2,000K
Eチーム	4人	長方形の型紙 鉛筆 2本 紙 2枚 はさみ 1本 お金 500K
Fチーム	5人	鉛筆 1本 紙 15枚 お金 100K
Gチーム	4人	半円の型紙 鉛筆 3本 紙 4枚 お金 500K
Hチーム	5人	紙 3枚 お金 100K

はさみや鉛筆などは技術、紙は資源を意味する。

A・Dチームは先進国、B・E・Gチームは新興国、C・F・Hチームは途上国の立場だった。

そこで、参加者全員による感想を聞いてみました。（ふりかえり）

- ・Fチーム Dチームから、はさみを30分も貸してもらえたのが勝因
- ・Hチーム Aチームは途上国に対して冷たかった
- ・Aチーム 自分が切らなくても、資源付きで働きに来てくれるので、どうやって稼ぐか困った。
- ・Hチーム 何もなかった。他のチームに無視された、銀行から製品をはねかえされた型紙をヤミに流した。同じチームの女性がよく働いた
- ・Hチーム 国連から技術供与（左手用ハサミ）がきて、はじめは喜んだが、実際には使い勝手が悪く、裏切られた気分になった
左手ハサミが意味していたことは...中古品、現場のニーズにあってない援助
高等技術を使いこなせない 教育の必要性
- ・Cチーム 盗んだ。ほとんどのチームから何かを取ってきた ストリートチルドレン
- ・Aチーム 盗まれたことに気づいたが、相手が貧しい国だったので、あえて突き止めなかった
ギャング、テロ

- ・交渉術は、女性のほうが成功率が高かった **売春、児童労働の問題**につながる可能性
- ・Aチーム Cから資源2枚持参した労働力が来たので、自国で労働者として型紙をとり、切り、製品を作ってもらった。その後、C国に帰る時には技術（はさみ）をあげた。
- ・Cチーム 出稼ぎに行っている間、留守番をしていた子供が心配だった
大人が他国で技術を習得し、本国に残された子供たちが少年非行に走った

「先進国は援助しようと考えなかったのだろうか？」

- ・Cチーム Aチームに出稼ぎにいていた時、Aの人たちは「こんなうまい商売はない」と発言していた
- ・Aチーム 物見遊山で他チームを見て回っていた。
（自国はゆとりがあるにもかかわらず）盗まれたら、盗み返したいと思った。
人が見えない、お金しか見えなくなってしまった。
- ・Dチーム 自分たちが最初から道具がそろっていたので、他の国の状況にまで関心が向いていなかった。ある程度、稼げると予想できたので、F国にハサミを貸しっぱなしになってしまった。甘かった。
- ・Aチーム 商社の基準がかなりゆるく、買い取ってもらいやすかった
ブランド（例えば、パナソニック、トヨタの車なら高く取引されることに関連）
- ・Aチーム コピー製品は作っていない、製品の品質をよくしていた

「価格の変動について」

- ・Gチーム 不正などせず、公正明大に作成していた
- ・流行り廃れのある市場の原理 ナタデココの一時的なブームなどの例にもみられる

「公平な取引のためには、どうすればよいだろうか？」

- ・Dチーム ある程度豊かになったので、途上国からの人に、よい条件で働いてもらおうと思った。
ともに栄える方策を考えなかった
- ・Bチーム 国際的な見本市などで、技術を紹介する場、出会いの場、交流の場があればよいと思う。 情報量が必要 どのような情報を得るか
- ・Hチーム 先進国が心を入れ替えて、富を共有しようというくらいの気持ちを持たないと公正な世界にはならない。
- ・Dチーム（出稼ぎ者の気持ち） 必死の思いで、低賃金労働で搾取されていると思った。
しかし、ハサミをもらえたことで、やる気になった。
- ・Cチーム ちょっと小金を持つと、高飛車な態度になった
高飛車な態度も、Aチーム（先進国）の影響がでていたのでは？
- ・Aチーム（雇う側）労働者としてしかみなしていなかった
- ・Dチーム（出稼ぎ者の気持ち）
雇う側の人に「お気楽ですね？」といったら、薄笑いしか返ってこなかった。

「相互学び合いの場づくり～ファシリテーターの役割～」

< 講師 > 国際民衆保健協議会 日本連絡事務所代表 池住義憲さん

「聴く」ということ

最初に、どなたかとペアを組んでいただきましょうか？ こういう講演会は、講師と参加者とが向き合うだけで、せつかく豊かな多くの経験を持っている方がたくさんいるのに、横の方との接触が少ないのもったいないですね。ちょっと最初の15分ぐらいだけ、お二人ペアを組んでいただけますでしょうか？

それでは、最初にどちらかが話し手、もう一方が聴き手、というのをやりましょう。私は今から「こういうことを話してください」と言いますから、最初に話をする人は3分間、話をしてください。3分たったら区切りますから、途中でも切り替えて、今度は最初に聴いた方が話し手になって同じことを3分間お話しする。聴く人は意識して一生懸命聴く、ということにしましょう。何の話をするかですが、「最近の私の関心事」。いいですか？ はい、どうぞ。

次に、近くのほかのペアの方と一緒に、4人でグループを作ってください。そして自分のパートナーを他のペアの人に紹介してあげてください。印象や感想や思いなど、「こんな内容でした。こんなふうに理解しました」でいいのです。他己紹介をする、ということですね。はい、それでは、どうぞ。

終わりましたね。ではちょっと質問します。みなさん、話やすかったですか？ 3分間話しているときの自分を振り返ってみてください。最初、「最近の関心事は、ええと……」といきなりでしたから、戸惑いがあったりしたと思いますが、1分、2分と話をしている自分を振り返ってみると、話しやすかったと思った部分が少しでもあったと思います。この思いは大切です。なぜか？ それはですね、今度自分が誰かと会っているときに、どういうふうにしたらその人

が話をしやすくなるか。そのヒントになりませんか？

ほとんどの方が話しやすかったと言った背後には、相手の人が一生懸命聴いてくれようとした、一生懸命聴こうとしてくれていた、ということがあったからでしょう。うなずいたり、「そうですか？ ええ」とか声を出している人もいましたね。一生懸命に相手の人が、自分の話を聴こうとしてくれているというのがわかるとうれしいですね。自分を認めてくれている、ということですからね。こんなうれしいことはないですね。

2つ目の質問をします。聴いているとき、どうでしたか？ 聴くのは簡単でしたか、難しかったですか？ かなり自然にできていましたね。私はずっと歩いて皆さんの表情を見ていましたが、すごくいい表情でした。それから気づきましたか、ほとんどの方が聴いているときの目線はこういうふうに少し下からのぞき込むような姿勢が多かったです。聴くというのはやさしいようで難しい。難しいようでやさしい。皆さんは素晴らしい自分の良い聴き方を持っている、と思います。

今、話をしている、取っつきやすかったと率直に思った感情はとても大切です。それは力です。日常に戻っているいろいろな方と出会いますけれども、どういう聴き方をするとその人が話しやすくなり、自分との関係をつくっていくきっかけになるか。是非今日の体験を思い出してください。

ここに「ファシリテーター」とカタカナで書いてありますけれども、もし、ファシリテーターという言葉が分かりにくければ、「相互学び合いの場をつくる」「より意味ある相互学び合いを自分の学びも含めて可能にする」、そういう役割を担う人がファシリテーターである、と

今の段階では頭に入れてください。相互学び合いの場づくりを可能にする役割を担う人にとって、今やったわずか20分間の話す、聴くということはとても意味あることです。

話を一生懸命聴いてくれているから、一生懸命話そうとする。みなさん、普段はどうですか？ 普段語るとき、一生懸命何かを伝えようという気持ちがどれだけありましたか？ ともすると職場での会合なんかのときに、「適当に言っておこう」「聞いても聞かなくても一応報告しておこう」など、アリバイが残ればいいのだからというような話し方をしたことはありませんか？ これは、コミュニケーションになってないですね。だめです。本当に伝えたいのであれば、体全体で伝える。そういう気持ちがあれば、私は伝える確率は非常に高くなると思います。

聴くときの姿勢に戻りますけど、今の3分間は一生懸命聴こうとしましたね。普段どのくらい聴いています？ いや、聴こうとしています？

職場で、家庭で。その人の声を本当に聴こう、本当に聴きたいんだ、あなたの考えを聴きたいんだよという思いではたしてどれだけ聴こうとしていました？ 相互学び合いの場づくり、これを可能にするために何が必要かといったら、今やったことです。自分のこれを伝えたい、共有したい。伝えようとする熱意、姿勢ですよ。それが相互学び合いの場づくりで、もっとも大切なことだと思います。

話す、自分の思いを伝える、共有するという
こと。それから自分が今向き合っている人、出
会っている人が何を考え、どういう思いなのか
を聴こうとする。そういう姿勢、生き方の問題
です。理屈ではない。これがもっとも大切だと思
います。

今日は、もうこれで終わってもいいですね…。それくらい重みのあることなんです。あとの「てにをは」や理論などはどのようにでもなる。それよりも、もっと素朴に今の出会い、今の関係、今の姿勢がどうだったかということを大切にしてください。

私はファシリテートをするときに、自分にメッセージがあればそれを本当に伝えようと思います。もちろん、タイミングや内容、言葉の使い方などはその状況に合わせてですが。同時に、本当にその人を大切に重んじて、その人の考え、意見を聴こうとする。「話す、聴く」。この二つが相互学び合いを可能にする人、ファシリテーターにとっての二大要素、二大対話能力と言うんですね。私がおっとも大切にしていることです。

後で「ファシリテーターって何？」という資料をお配りします。今は、体で受け止めてください。体で感じ取ってください。みなさんが持っている豊かな感性、人格で受け止める。それで十分です。

フィードバックの大切さ

もう一つ、せっかくですから。今、最初に「私のパートナーの誰々さんの関心事は、こういうことなんですよ」と、ペアの方に紹介しましたね。自分の関心事をペアの人に紹介してくれているのを聴いていて、どう思いましたか？ では、グループの中でどのように感じたか、どんな思いだったか、少しの時間、話し合ってみてください。

はい、ありがとうございます。会場を歩いて声を拾ったんですけど、「恥ずかしかった」「嬉しかった」「言った以上にまとめてくれた」とか。また、「そういうふうに理解してくれたのかと聞き、嬉しい」というように言われた方が多くありましたね。これも非常に重要なことなんですね。自分が3分間話をした。それが、どういうふうに理解されたか、受け止められたか。それを語ってくれたわけですね。

これは自分が話したことが、どう受け止められたかという、自分に対する「フィードバック」です。自分を理解するには、周りの人がどうい
うふうに自分を理解したかということ
を理解すること。つまり、私たちは日常でいろいろなフィードバックを出しているし、出されている。それをきちんと受け止めることができれば、相

互学び合いの場づくり、また相互学び合いをより意味のあるものにする働きを豊かに担うことができますと思います。

自分が話した中で、「これは、どうでもいい」程度と思って言ったことを、一番受け止めてくれていた方がいたかもしれないですね。そういう場合、「いや、私の趣旨はそうではなくて、私の言いたかったことはこうなんですよ」とつい言い返してしまうことがありますね。しかし、少なくともその人は、それを一番中心のメッセージとして受け止めた。なぜか？ それは、その人の経験、生き方の中で、自分は大切なことないと思って言ったが、その人にとっては重要なことだったんですね。これは、コミュニケーションのギャップではありません。ちゃんとコミュニケーションがとれているんです。ただ、それを認めないだけの話です。

いうことは、何で言ったかという、こういうことがあったからなんですよ」というかたちで二人の話し合いがさらに意味のあるものにつながっていく。発展をしていく可能性があります。どうですか、みなさん。この「話す・聴く」のエクササイズで、発掘・発見したこと、感じたこと、ありませんか？

貧困問題は「」問題である！

今度は、個々人で作業をします。「貧困は問題である」。空欄がありますから、この空欄にどんな言葉でもいいです。何か適当と思う言葉を入れてみてください。または「貧困」を「南北問題」に置き換えて、「南北問題は問題である」にしてもいいです。空欄の中に1つか2つくらい、まず自分の用紙に言葉を入れてみてください。正解というのはありません。言葉が思い浮かばなかったという方は、結構です。

書きました？ そしたら、今と同じグループで、お互いに書いたものを共有してください。なぜそう書いたなど、理由を説明したりしてください。



4、5人で話をして、どうですか？ いろいろなとらえ方がありますよね。貧困は、「世界の問題」「お金の問題」「解決は難しい問題」「私たちの問題」「貧富の差の問題」「分配の問題」「環境の問題」「人権の問題」「教育の問題」「人間的な問題」「地球規模の問題」であるなど、いろいろなとらえ方がありましたね。

相互学び合いというのは、「私は貧困というのをどういう問題としてとらえているか」を自分で考えて自分の言葉で出す。そして相手の人に伝える。ほかの人たちは、どういうふうに貧困を見ているか、とらえているかを尊重して聴く。そうすることによって、意味ある相互学び合いが可能になります。

学問的レベルは問題ではありません。自分の経験から、貧困をどういう問題としてとらえているか、が大切です。しかも自分の考えだけに固守しないで、他の人たちの考えを重んじて受け止める。受け止めることによって、自分の貧困に対する一つの見方が広がる。深まる…。

あなたの立っている所があなたの視点！

人がまるく坐っている真ん中に、こんな1枚の絵があるとしましょう。下の位置から見ると、この記号は何に見えますか？ 「マクドナルド」。なるほど。思いが出ているんですね。そう、文字で言うと、これは「M」です。右側から見ると何に見えますか？ 数字の「3」に見えますね。左から見ると「W」。上から見ると、「E」。そのほかに何に見えますか？ 「山」「トンネル」



面白いですね。今私たちは同じものを見ている。でも見る人によって、見る位置にて違う。私は「M」だと思っていたけれども、この地点から見れば「E」にも見えるのか、ということで、自分の考えが広がります。これが相互学び合いの「力」です。自分には気がつかなかったことが、相互に持っているものを共有することで、学ぶことができる。こうしたプロセス、場を「参加型学習」または「ワークショップ」といいます。

国際理解や国際協力、またNGOやJICA（国際協力機構）などの活動で、途上国とどのように協力をするかというときに、いろいろ多様な視点がある。まさに相互学び合いの場を作って、一緒にいろんなものを出し合っていく。その過程で、みんなが力をつけあっていく。そういうことが意味あるんです。

相互学び合いと言っても、こういうのは問題がありますね。例えば、「1 + 1をどう思う？」「僕は4だと思うな」「1 1じゃない」「なるほどね、そうですか。今日はいろいろな考え方がありましたね。はい、きょうはこれで終わりです」！これはどうでしょうかねえ。でも、だからといって、「4、違う。1 1、違う。1 + 1は2だよ。2。ちゃんとノートに書きなさい。来週試験しますよ！！」。

こういうのを、「権威の教育」といいます。権威的な暴力的な手法ではだめです。試験では正解を書くでしようが、人間的な部分で大きなマイナスを作り出してしまいます。信頼関係は崩れるし、人間を育てる教育にはなりません。「権威主義的方法で民主主義者を育てることはできない」という言葉があります。どんなに内容が正しくても、権威主義的、暴力的なやり方

では、逆効果です。何らかの他の方法があるはずですが、そのときは分からなくても、またその次のチャンスがあります。自分と出会っている時にそれができなければ、その人が次に会う人を信じて委ねればいい。すべてが私の責任範囲だと思い込んで、暴力的に生徒を、参加者を押し込めてしまうことは、逆効果をうむ場合が多い。相互学び合いの場づくりと書いていますけれども、私は相互学び合いの場をつくること、それ自身がメッセージです。それ自身が南北問題を解決するメッセージでもあります。

「構造的暴力」としての「貧困」

私はいつもNGOとしての30年の経験から、貧困を「構造的暴力の問題」として捉えています。貧困を構造的暴力の問題と捉えるようになって以来、私の「貧困」理解は大変明解になりました。いろいろ、見えてきました。

つまり、「暴力をふるっている人」と「ふるわれている人」。そしてその暴力行為を「見て見ぬ振りをしている人」。この三者がはっきり、見えてきました。もちろん、この場合の暴力は直接的な暴力ではなくて、「間接的・構造的」暴力です。この構図が見えてくると、「池住、おまえはどこに立っているのか？ どちら側に立っているのか？ 暴力をふるっている側か、ふるわれている側か。または、それを見ている傍観者なのか？」「では、今後、おまえはどうするのか？」…。

貧困をどういう問題として捉えるかによって、貧困問題に対する「取り組み方」が変わります。先ほどやった「M」「E」「3」「W」のエクササイズですが、こういう言い方があります。「あなたの立っているところがあなたの視点」(Your standpoint is your viewpoint.)。あなたの持っている豊かな経験が、あなたの価値観と行動を起こす力になっているんですね。

さきほど皆さんと話し合っている際、貧困を「私たちの問題」として書いた方がいましたね。とても意味があります。貧困は第三世界の問題で

はなくて、「自分の問題」「自分たちの問題」だというとらえ方。このように貧困問題を捉えると、貧困問題へのかかわり方が変わります。

「人権の問題」だと書いた方。これもいいですね。こう書いた方は、貧困を人権という視点から取り組んでいくことになると思います。知識を持っているだけでは、何の役に立ちません。行動に移さなければ何の役にも立ちません。平和を知っているだけではだめです。平和を創っていく、そのための行動を起こさなければだめです。行動を起こすときには、自分はそれをどうという問題としてとらえるか。これが大切です。

私たちはどこにいるか？ これをどういう問題として見るか？ どこにアプローチしていくか？ そんな豊かな話し合いがそれぞれの地域できて、滋賀は滋賀で、私は愛知県の日進ですけども愛知県は愛知県で、そして滋賀と愛知県がそれぞれのやり方、内容を共有しあいながら、お互いに学びあい、力をつけあっていく。少しでも意味のある地域づくりをお互いにやっていく。そういうふうになれるといいですね。その新たな出発が今日、つくれると素晴らしいと思います。

「貧困問題は解決できる」と思うかどうか

さて、皆さん、皆さんは「貧困問題」を解決できると思いますか？ 思いませんか？ 貧困を解決できる、なくすことが出来る、と思う人は貧困のところを×印で消してください。いやあ～、貧困問題は解決できない、難しい、と思う人は×しないで残しておいてください。

はい、ありがとうございます。×した方もいるし、しなかった方もいますね。この問いは、私はとても大切なことだと思っています。

どういうことか？ 貧困があってもいいと思っている人は、ほとんどいないと思うんですね。皆、解決した方がいいと思っている。今私が訊いたのは、「解決できると思うか、思わないか」ということでした。なぜ、重要か？

それは、この貧困問題を解決できると思うか思わないかによって、自分の貧困問題に対する取り組み方が全然違うからです。どう思うかは「内心の自由」です。でも、どう思うかによって自分の生き方が決まります。変わってきます。「解決できる」と思えば、貧困問題への取り組み方が違う。自分自身の生き方も変わってくる。なくした方がいい、解決した方がいいと思いながら、しかしそれは無理だと思えば、それなりの生き方、かかわり方に止まる。「どう生きるか」という決定権は、自分が持っています。いい悪いではありません。本当になくした方がいいけど、無理だよなと思えば、かかわり方が違う。ちょっとデモンストレーションをしてみます。

私は、以前、よく環境問題ワークショップをやってきました。「環境問題、ごみ問題、これはなくした方がいい。でも、解決するのは難しい」と思ってワークショップのファシリテーターをやると、最後の終わり方はこんな感じになります。ちょっとやってみます。

「みんな、今日は楽しかったね。環境問題。いろんな紙や缶などを持ってきて、その材料がどこから来ているかをずっと紐解いていったよね。さっきビデオ見たでしょう。あのボルネオ島カリマンタンの熱帯雨林。大きな樹をドーンと切り倒して、すごかったね。ああいうところから、私たちが使っている紙や木材の原料がきているんだね。きょうは楽しかったね。来週はね、メディアリテラシーというノリノリのやつがあるんだよね。じゃあ、今日はこれまで。では来週！」。こんな感じで終わりますよ。

ところが、「環境問題の解決が難しいのは分かっている。でも、解決できる」とファシリテーターが思って環境問題のワークショップをやったら、ワークショップの終わり方はこういうふうになるでしょう。やってみます。

「今日は、意味あったね。すごく良かった。紙や缶などいろいろなものを持ってきて、その背後のこれらがどこから来ているかを紐解いたよね。特に、紙、木材、家を造っているもの。これらの材料はどこから来ているかを辿ったら、多くが熱帯雨林からなんだね。さっきボルネオ島カ

リマンタンの森林伐採のビデオ、見たよね。大きな木をバサッと切り倒して、それを切って運ぶ。木を運んだ山道は、雨期が来ると泥を運ぶ川になって泥水が川に流れ、きれいだった川は泥の川に。そしてその川で生活していたイバン族の人たちが生活できなくなった。子どもが健康を害して、死んだよね。環境問題は人の命を奪う問題なんだね。これ、何とかしよう。来週もう1回、この問題をやろう。次回は、自分たちの地域で何が出来るか。一緒に考えようよ。では、来週のこの時間にまた会いましょう!。こういう終わり方になるでしょう。

これはほんの一例です。なくせる、解決できると思うか思わないか、重要です。皆さんがこれから参加型でファシリテーターの役割を担う場合、単に手法にとらわれないでください。やり方、方法よりも、冒頭にやった自分の思いを伝えようとする気持ち。ほかの人たちがこの問題をどうとらえるかということ、本当に学ぼう、聴こう、あなたの考え方を知りたいんだよ。一緒に持っているものを共有し合って、問題解決は出来る!と信じて取り組んでいく。こういう姿勢が大切ですね。ファシリテーターはそういう場をつくっていく。

手法の問題ではなくて、その問題に対する自分の向き合い方です。その問題のとらえ方です。これがもっとも大切だと思っています。

最後に資料を。私が5、6年前にファシリテーターって何ということについて、わかりやすく書いたものです。ファシリテーター、より意味のある相互学び合いを可能にする人、そういう役割を担う人。促進役、引き出し役、司会進行役、コーディネーター、どんな言葉を使ってもいいです。

ファシリテーターにとって大切な考え方

ファシリテーターにとって大切だと思うことを6つ。これは本から来たものではありません。私の約30年間のNGO経験のなかで、特にアジアの現場から私が身体で感じとったものです。

これを最後に共有させてください。



「ファシリテーター」にとって大切な考え方」

1. 「すべての人は、豊かな経験、知識、技術、アイデア、パワーを持っている」と信ずること

これでとくに大切なところは、「すべての人」という部分です。たとえば8歳の子どもは8年間の人生の中で、大人が見えない、忘れた、無視している、気がつかない素晴らしい経験や視点、アイデア、パワーを持っている、と信ずることです。ファシリテーターにとって大切なものを、これですべてを言い尽くしていると言ってもいいくらいですね。これを信ずることができるという前提で、次、2にいきます。

2. 人々の知っていること・関心のあることから始め、私たちの持っているもので築き上げる (Start with what people know. Build on what we have.)

ファシリテーターが自分の関心ではじめからベラベラしゃべるのではなく、参加者の関心のあること・知っていることを共有することからスタートする。「南北問題、貧困、そういうふうにとらえるんですね。どうしてそう思いました? ああ、なるほど」などという具合に。そして、「なるほど。いろいろなとらえ方・考え方があるんですね。それとの関連で、私は貧困を構造的暴力としてとらえているんですよ」と、ファシリテーターの考えも参加者と共有する。このように、私たち(参加者とファシリテーター)がそれぞれ持っている豊かなものを重ね合わせ、すりあわせて意味ある強め合い、学び合いを起

こします。

3. 「変化は可能である」と信ずること (Change is possible.)

皆さん、今までこういう経験ありませんか？「これはこう変えたい。だけどダメだろうな。今の理事長、頭が固くて、何を言っても駄目。変わらない...」。そう思ったら、本当に変えることはできない。また、その人との信頼関係は築くことはできない。いつか必ず変わる。変化は可能だと信ずること。私はこれをとても大切にしています。

ただ、いつ、どういう形で、どういう方向に変わるかというのは、その人によりますよ。自分の思い通りに、思うようなタイミングで、思うような方向に変わるなんてことは、人が違うんだからまずあり得ないと思ったほうがいい。そうではなく、その人はその人なりにいつか必ず変わる。変わる方向や内容は、その人自身が「力」を持っている！と信じてことです。

もしそこで我慢できなくて「あなた駄目だね。こうしなさい」と言って権威的・暴力的な方法を取ってしまえば、それがいい内容であったとしても、駄目。権威主義的方法で民主主義者を育てることはできない。戦争で平和はつくれない。暴力で平和はつくれない。いじめることによっていじめをなくすることはできない。みな、同じです。

4. 変化は内側から... (Change comes from inside.)

卵から雛が孵化する話、ご存じの方いますか。鶏の卵は何日で孵化します？ だいたい21日ぐらいだそうです。ちょっと考えてみましょう。鶏が卵を産みます。最初の数日間、お母さん鶏はどうしますか？ 卵を温めますね。温めることによって孵化を助け、また卵を外敵から守ることもあるのでしょうか。

ところが17、18、19日目ぐらいになると、温める以外に、お母さん鶏は卵に対して違うことをします。何をするか、わかりますか？ そう、くちばしで卵を突っつくんですね。突っつくとも内側から雛が応答する。応えが返ってくる。さて、問題はここからです。ここから先、お母さんは卵に対して重要な役割を担います。それは何で

しょう？「転がす」「温めるのをやめる」、なるほど。今度聴いておきますね(笑)。「ひびを入れる」なるほど。「放っておく」、そう、正解です。何もしない、という役割です。「待つ」という役割です。なぜお母さん鶏は待てるんですか？ そうですね、お母さん鶏は、「この雛は自分の力で内側から外に出てくることができる」と信じているから、だから待てるんです。

お母さん鶏が待てないとうなるか？「あら、おかしいわね。今日はもう22日になっているのよ。何かあったのかしら？」とくちばしでガーンと殻を割ってしまったら、自分のくちばしで雛を傷つけてしまうかもしれない。いや、命を奪ってしまうことさえ起こる。傷つけなかったとしても、外側から殻を突っつけば、殻は内側に入って雛は出てくることができない。変化は内側から。

皆さん、どうですか？ ファシリテーターとして、指導者として、いや、親としてどれだけ待てますか？ どれだけ信じていますか？ 卵の孵化の話はとても示唆に富んでいると思います。

5. 内容(結果)よりもプロセス重視 (Process than content)

相互学び合いの場づくり、ファシリテーターの役割づくりは、ワークショップの間だけの問題ではなくて、24時間365日、自分自身の生き方の問題ですね。自分の生き方が、講座やワークショップのファシリテーターをやるときに出ます。ただ単に参加型の手法を駆使しているということでは、人格的な交わりはあまり起きない。教育とは、人と人、違う人格と違う人格が出会って対話し、お互いに尊重して強め合っていく。それを少しでも可能にする役割を担う人がファシリテーターです。相互学び合いの場づくり、より意味のある学び合いを可能にする役割を担う人がファシリテーターです。

内容・結果よりも、プロセス(手法・方法)重視。権威主義的方法で民主主義者を育てることはできない。この場合のプロセスとは、単に手法や方法だけではありません。教育方法も大切ですが、さらに大切なのは、参加者と自分の

信頼関係です。人間関係です。もちろん、参加者同士の信頼関係も含まれます。参加型講座でははじめにアイスブレイキングでグループづくり、仲間づくりをするのは、お互いが知り合う、親しくなるということを大切に考えるからなんです。

6. 「共に旅する人！」(Co-Traveler)

15年ほど前になりますが、福岡でファシリテーター・ワークショップをやっていた時のことです。ワークショップの最後に、一人の参加者が手を挙げてこう言いました。「ワークショップって、なかなか面白くてよく分かりませんが、英語が多いんですよね。あの～、ファシリテーターという言葉、日本語に置き換えるとしたら、池住さんはどういう言葉を使いますか？」とね。私は一瞬「うっ」と息が詰まって数秒おき、ホワイトボードに向かってこういうふうにしたんです。「共に旅する人！(Co-Traveler)」これと関連して、一つの詩を皆さんに紹介します。これは、私がインドのアンドラプラデシュ州農村に滞在して農村指導者のトレーニングをしている時、村の青年リーダーがテルグ語で話してくれたのを私なりに受け止めて一つの詩にしたものです。ファシリテーターとは何かを端的に示している詩です。私が大切にしているものです。

「私たちの前を歩かないでください。
私たちはあなたに引っ張られたくありません。
私たちの後ろを歩かないでください。
私たちはあなたに押されたくありません。
ただ、私たちの横にいてください。
そして人生という長い旅を共に旅して行きましょう」
("Don't walk ahead of us.
We don't want to be pulled.
Don't walk behind us.
We don't want to be pushed.
Just stand beside us.
And let's walk together, work together.")

私とあなたは違う。違うからこそ、違う豊かに持っているものを共有しあいながら、それぞ

れ異なる人生を前に進めていきましょう。ある時は近く、ある時は離れて。離れたままかもしれない。だけど、信頼し合って、それぞれの現場で、持ち場で人生を前に進めていきましょう。

共に旅する人。良い言葉ですね。大切にしていきたいものです。

おわりに

ファシリテーターにとって大切な理念・考え方、6つまで紹介しました。さて、皆さん、皆さんのノートに、7、8、9、10と番号を打っておいてください。7～10の欄、今日の段階では空欄にしておいていいですが、ここは皆さんが豊かに持っている経験・想いから、ファシリテーターとして自分が大切にしたい考え方を自分の言葉で書き入れるスペースです！時間がかかってもいいです。少しずつ自分の言葉で書いていかれるといいのではないかと思います。どうもありがとうございました。

分科会 1 「ゲストを迎えてつくる授業」

< 講師 > ピナツボ復興むさしのネット (ピナツト) 職員 出口雅子さん

[フィリピンボックス体験]

フィリピンのことばは、何語かご存知ですか？
タガログ語、これはマニラのことば、方言ですね。
フィリピノ語がナショナルランゲージで、あと英語も公用語です。

まずは、あいさつから。「Magandang hapon
マガンダン ハーボン (美しい午後)」 “こ
んにちは” です。ハボンのポにアクセントを置
くと意味が違ってしまいます。そうです、日本
人の意味になってしまいますので、ハにアクセ
ントを置いてください。

今日は、フィリピンボックスの実践紹介とい
うことですので、これがフィリピンボックスで
す。およそ40の道具が入っていますが、すべ
てを用いるのではなく、この中からいくつかを
紹介したいと思います。



それでは、3, 4人一組になってグループご
とに、最近食べた「おやつ / デザート」を20コ
書き出してください。

シュークリーム、おはぎ、チョコレート、ぶどう、プリン、
アイスクリーム、すいか、まんじゅう、ゼリー、ケーキ、
マシュマロ、葛饅頭、ヨーグルト、フルーツケーキ、ポ
ッキー、ドーナツ、三色団子、甘栗、甘納豆、かき氷、
お好み焼き、えびせんべい、あめ、フルーチェ、牛乳寒天、
ホットケーキ、わらびもち、赤福、ビスケット、梨、シ

ャーベット、麩菓子、リッツ、するめ、冷やしぜんざい、
桃、あんみつ、あんぱん、くずもち、スコーン、ティラ
ミス、みかん、ポン菓子、ポップコーン、カステラ、う
いうろ、アップルパイ、ベビーラーメン、チュウチュウ、
メロン、パフェ、ぼたもち、ロップウ、ところ天、クレ
ープ、みなづき、チーズケーキ、チョコサンデー、ジェ
ラード、アイスキャンデー、ソフトクリーム、マンゴー
プリン

みなさんから出た中で、日本の伝統的なおや
つは、どれでしょうか？

せんべい、羊羹、おはぎ、まんじゅう、あん
みつ、三色団子、あられ、ところ天、みなづ
き、あめ、ぼん菓子、甘納豆、わらびもち、
くずまんじゅう、あんぱん

他に、どこの国から影響を受けたものかわか
るものは？

ジェラート、ティラミス … イタリア
スコーン … イギリス
クレープ、アップルパイ … フランス

(フィリピンボックスから一つ道具を出して、)
これは、何をつくるものだと思いますか？

鯉節を削るみたいな…、これはIce shaver、氷
を削る、押して削る、かき氷づくり機です。

さて、これで作ったかき氷のほかに、何か
をのせるのですが、何だと思いますか？

アイスクリーム、バナナ、プリン、ナタデコ
コ、あんみつのようなものを、このような容器
に入れて、ハ口ハ口して食べます。ハ口ハ口と
は「Mix mix」という意味です。

この写真のように、一番下がナタデココやジ
ャックフルーツ、ココナツ、バナナなどを入れ、
次にかき氷、その上にアイスクリームとプリン
を乗せます。そして、このスプーンでハ口ハ口
(mix mix)して形も色も完全に混ざるまで、混
ぜ混ぜして食べるんです。

このハロハロは、フィリピンの歴史や文化を表しているとも言われていますし、“ハロハロ”ということばは、多様性を表す形容詞としても使われています。



ハロハロは、一番底の部分には、熱帯地方特有のフルーツであるココナッツやジャックフルーツ、バナナなどが入っています。プリンもスペインからきたおやつです。ご存知の方も多いと思いますが、かつてフィリピンは400年近くスペインの植民地でした。そのとき、プリンが持ち込まれました。

その後、米西戦争後、今度はアメリカの植民地になり、40年ほど統治されました。そのころに、アイスクリームが持ち込まれました。当時のフィリピンはアメリカの統治下におかれていたので、公共事業などが盛んで、GDPも日本よりも高く、日本からの出稼ぎ者も多くやってきました。

第2次世界大戦では、約3年間日本の占領地になったことと、戦前日本から出稼ぎにきた人たちが現地に定住するようになったこともあり、かき氷が伝えられました。

第2次世界大戦後、ようやくフィリピンは独立を果たしました。しかし、マルコスなどの独裁政権の下では、なかなか自由はなかったようです。

実際に日本の小学生にハロハロをつくってもらおうと、混ぜることに抵抗を感じる子どもがいるんですが、それぞれ食べてもおいしいのを、わざわざ混ぜて食べると、よりおいしい。混ぜてこそ味わえるおいしさを楽しんでもらいたいです。

フィリピンには、常にいろいろな人が混ぜられている方が楽しいという人間関係があります。

実際に作ってみると、中に入れるものによって毎回味が変わるので、混ぜることで違った楽しみがあります。自分らしさを残しながら、さまざまなものをハロハロして、より豊かなものを築いていく文化、これこそがフィリピンの特長だと言われています。

ハロハロを入口に、フィリピンについてもっと深めるのであれば、食文化、たとえばボックスに入っているレシピを用いて料理をつくるというのもいいだろうし、歴史やことばなどをテーマに調べ学習にもっていくというのもいい。さらに発展させて、社会問題、貧富の格差などについて学習するというのもできると思います。

また日本とフィリピンの関係について深めるのであれば、戦前日本からフィリピンへ出稼ぎにいったことや、何年か前のナタデココの流行、バナナ、エビといったものが貿易で日本にやってきていることなどの学習へ発展させることができるでしょう。

また異文化の影響について深めるのであれば、いろいろな文化が影響しあっているフィリピンの文化を知ることから、ファッションや音楽などにみられるように文化が混ざっていくことを考えたり、日本の文化とは？またそれを守っていくべきか？などについて考えたりすることもできると思います。

フィリピンボックスは、フィリピンの人びとの暮らしや文化、社会に触れるための小道具がぎっしり詰まった玉手箱です。

<http://hachinoko.id.infoseek.co.jp/pinat/pbox/pbox.htm>

[フィリピンボックス貸出実践事例より]

1. エンパワメントとしての

ゲスト・ティーチャー

三鷹市在住のフィリピン人や私のようなフィリピン好きの日本人と一緒にこのフィリピンボックスをつくりました。学校等に貸出することを想定して、フィリピン人の保護者が自国紹介をするときの小道具になるよう作成しました。というのも、小学校の授業で、日本語でフィリピンについて紹介してほしいといわれても、とても難しいので、こうしたものを見ることで、ゲストのイメージが膨らみ、はじめはできないといていた母親たちが、これは知っている、これならできる、フィリピン文化の紹介をやりたい、伝えたいと思う動機づけになっているようです。

日本人の父親とフィリピン人の母親という家庭の場合、夫と日本生まれの子どもは日本語が通じますが、フィリピン人の母親は言葉ができないために、学校のことなどは父親任せになってしまい、自分は何なのか、自信喪失している人がときどきいます。

そんな母親が、フィリピンの文化を学校で紹介する機会を持ったことで、“I am happyじゃなく I am proud”と喋りながら泣いて、自信がもてるようになったことを喜んでくれたことがありました。

またJFC(Japanese Filipino Children)には、どの年齢で日本に来たかによって、日本語のレベルに違いがあります。小学校中学年ぐらいで日本にきた子どもは、日常会話はできるようになっても、日本語で算数などの授業を受けるのは難しく、言葉がわからないために学習についていけなくなってしまいます。

周囲は、あの子は何もわからないんだと思ってしまいましたが、フィリピンボックスの小道具を見た瞬間、自分はこれを知っているということがあると、日本語を話す意欲がでてくる。「ぼくは、みんなより知っていることがあるんだ」



という自信を持つことができ、また周囲は、彼は日本のことはあまり知らないが、フィリピンのことは良く知っているという認識を生み出す効果になることがあります。

2. 一緒に授業をつくる

伝えたいこと、伝えてほしいことのすりあわせ

よくゲストを招くときに、一番自由にできるだろうとの配慮からか、「全面的にお任せします」と言われることがあります。しかし、それは自由なようで、実は一番難しいです。少なくとも、ゲストを呼ぶときには、「何のためにゲストを呼ぶのか?」「国際協力なのか、ストリートチルドレンのことなのか」、また「何を伝えてほしいのか」を、まず伝えてもらいたいと思います。

以前知り合いのフィリピンの方が、ゲストとして小学校へ招かれた際に、国際協力について学習をしているということだったので、スラム街のビデオを見せ、「どのような国際協力がよいと思いますか?」と問いかけたそうです。実際には、先生たちは楽しいフィリピン文化を伝えてほしかったのに、いきなりスラム街のビデオを見せられて、先生も子どもたちもひいてしまったという、事前の打合せ不足による失敗例を聞いたことがあります。

また日本のNGOの方がゲストで呼ばれた際にも、「国際協力について話してほしい」といわれたので、まず楽しいフィリピンの話からはじめて、次に貧困と国際協力の話をしたのですが、事前学習と重複していて、もっと国際協力の現

3.一緒に教材をつくる

特に、その前後の授業とのつながりの有無や、どこまで話してほしいのかについて事前に打合せをしてもらいたいと思います。またゲスト側も、事前に内容について確認し、コミュニケーションをとることが重要だと思います。

またもし可能であれば、電話やファックスだけでなく、授業のシミュレーションまでやっておくとゲストも安心できるし、先生にとっても何を用意しておく必要があるかなどについて準備ができると思います。

単純なことです、1時間話してくださいといわれて、1時間なのか、1時限45分授業のことなのか、誤解したりすることもあります。また子どもたちに、「先住民」「NGO」等のことばが通じるのかや、手をつなぐようなアクティビティが、思春期の生徒たちに参加してもらえるかなどについて、教員の意見を聞いておきたいという思いもあります。

またどんなものを使うか、ビデオなども確認する必要があると思います。ゲストが楽しい話をしようと思っていたのに、スラムについてのビデオを先生が先に流したために、雰囲気が悪くなってしまったという話を聞いたこともあります。

また授業のあとに、子どもたちからの反応が少なかったときなどに、先生から「よかったですよ！」と言われても、素直にはよろこべないので、お世辞でお礼をいわれるよりは、率直な感想を聞かせてほしいと思います。

私がゲストに呼ばれたときにも、教室に一人ただ黙ってつまらなさそうにすわっている生徒がいて、あまりよい授業ができなかったのかなあと思っていたら、授業の後に担任の先生が来て、「出口さん、すごい！あの子が最後まで教室から出て行かなかったなんて、すごいですよ！」と言ってもらってはじめて、彼は一生懸命私の話を聞いてくれたんだとわかり、うれしくなったことがあります。普段の様子を知っておられる先生たちから聞かないとわからないことだと思いました。

そして何より、一緒に授業をつくと、それについて一緒にふりかえりもできることが良いことだと思います。

フィリピンボックス作成の際、教員からの「こんな教材が欲しい」というリクエストに対して、フィリピン人がリソースになり、国際交流協会が補助金を出したり、会議室代を負担してくれたりしました。教材が完成した時には、一NGOの活動ではなかなか関心を持ってもらえないけれども、協会が学校への広報をしてくれることで広く呼びかけることができました。またピナットと協会が協力して、教材のお披露目を開きました。

滋賀でも、教材づくりにブラジル人に入ってもらうことで、ブラジル人の人たちにとっても、日本の学校のことがわかる機会になると思います。また、教材を利用している公開授業を見学に行くなどコミュニケーションをとることで、関係をつなげていくことができるでしょう。

「国際理解教育研究会 Glocal net Shiga」について

(財)滋賀県国際協会は「国際理解教育研究会 Glocal net Shiga」を平成15年4月に立ち上げました。研究会では、国際理解教育のねらいを、以下のように考えています。

- 地球上には、自国文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること **(多様性の尊重)**
- 地域には、さまざまな文化背景や価値観等を持つ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと **(多文化共生社会づくり)**
- 世界と自分とはつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること **(相互依存関係の理解)**
- 地球的課題を解決するために行動すること **(公正・平和な社会づくり)**

こうしたことをねらいとし、さまざまな実践方法を学びながら、国際理解教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力NGO関係者・外国人住民・地域国際協会関係者など、さまざまな立場や経歴の持ち主が参加し、幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。また、滋賀県の特徴を生かした題材をとらえ、地域の様々な課題に対する解決への取り組みなども行っていくことを目指していきます。

研究会は、毎月1回日曜日に例会を開催しています。研究会にご関心のある方は、お気軽に当協会までお問い合わせください。また国際理解教育についてのご相談も随時承ります。

研究会16年度のあゆみ

開催日	内 容
4 / 1 1	今年度の活動および6月開催ワークショップに向けての話し合い アクティビティ体験「ひょうたん島問題～多文化共生社会をめざして」
5 / 2 3	アクティビティ体験「外国人の人権を考えるアクティビティ(小樽公衆浴場外国人拒否問題から)」 6月開催ワークショップに向けての話し合い
6 / 1 3	国際理解教育ワークショップ「地球市民を地域とともに育てよう part 3」開催 アパートヘイト体験談、ひょうたん島問題ワークショップの体験 ブラジルボックス製作および総合教育センター「初任者研修」へ向けての話し合い
8 / 1 7	滋賀県総合教育センター「初任者研修」にて 「世界がもし100人の村だったら」実践
8 / 2 4	国際理解教育教材「ブラジルボックス」製作 日系ブラジル人協力者とともに教材づくり ピナツボ復興むさしのネット(ピナット)職員 出口雅子さんによる「フィリピンボックス」の紹介
9 / 1 2	国際理解教育教材「ブラジルボックス」製作 日系ブラジル人協力者とともに教材づくり アイスブレイキング「折り紙が教えてくれること」(日系移民折り紙展より)、ブラジルの良いところ探し
10 / 2 4	国際理解教育教材「ブラジルボックス」製作 日系ブラジル人協力者とともに教材づくり 滋賀県総合教育センター「15年経験者研修」へ向けての話し合い
11 / 1 6 ・ 1 8	滋賀県総合教育センター「15年経験者研修」にて 小学校教員対象「ブラジルボックス」・中学校教員対象「難民問題から平和を考える」・ 高等学校教員対象「ハンガーマップ」の実践
11 / 2 1	研究会会則・会長について話し合い 滋賀県総合教育センター「15年経験者研修」を終えての話し合い
12 / 1 9	1月16日開催ワークショップに向けての話し合い
1 / 1 6	国際理解教育公開ワークショップ「ブラジルボックス&レヌカの学び」開催
2 / 2 0	国際理解講座「紛争下の子どもたち」参加 講座終了後講師を囲んで意見交換
3 / 1 3	次年度の活動「新規教材開発プロジェクト」について話し合い 滋賀大学教育学部国際理解教育研究会、県青少年室 青少年社会参加活動推進事業について紹介

8月17日 滋賀県総合教育センター「初任者研修」



世界がもし100人の村だったら

11月16日・18日 滋賀県総合教育センター「15年経験者研修」



ブラジルボックス



難民問題から平和を考える



ハンガーマップ

「ブラジルボックス」製作過程



シマホン試飲

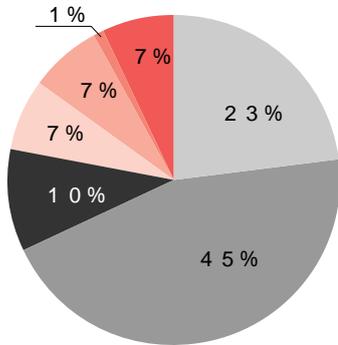


日系ブラジル人協力者とともに

滋賀県における外国人登録者数

財団法人滋賀県国際協会 作成

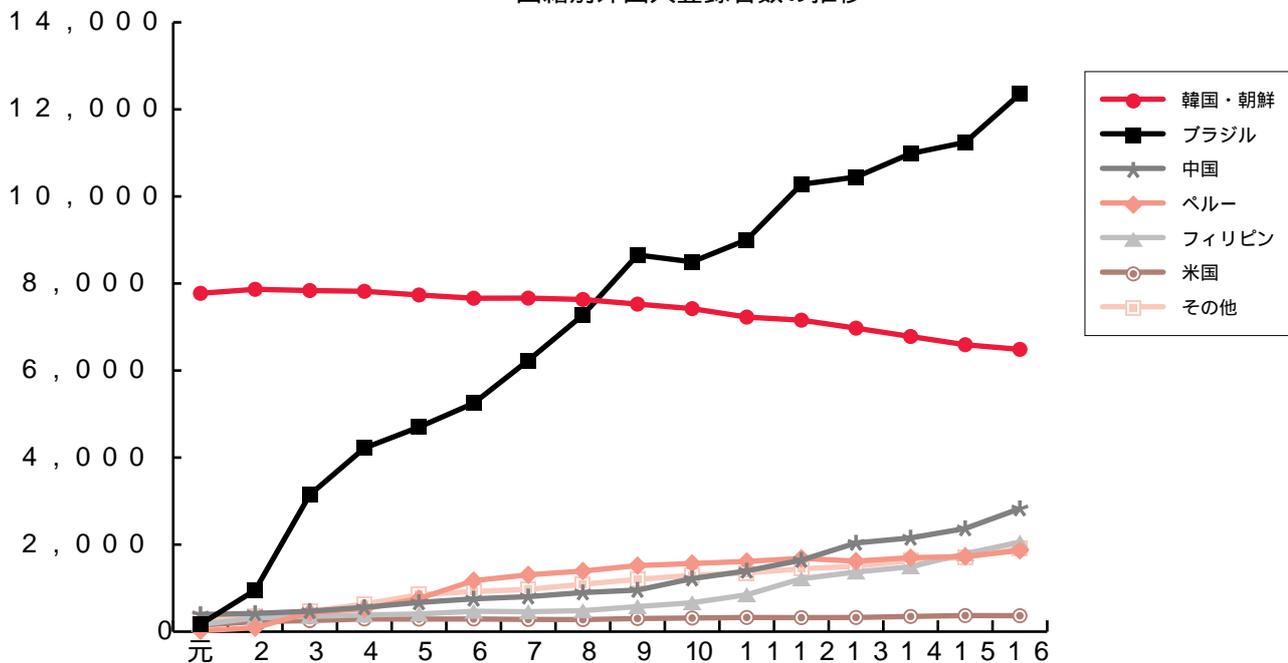
平成16年12月末現在 国籍別外国人登録者数



韓国・朝鮮
ブラジル
中国
ペルー
フィリピン
米国
その他

国籍	登録者数
韓国・朝鮮	6,486人
ブラジル	12,355人
中国	2,828人
ペルー	1,866人
フィリピン	2,056人
米国	366人
その他	1,906人
合計	27,863人

国籍別外国人登録者数の推移



外国人登録者数の比率が2%以上の市町村

(平成16年12月末現在)

市町村名	外国人登録者数	総人口	外国人比率	備考(上位3国籍)
1 愛知川町	1,000	11,839	8.45	ブラジル658人、中国102人、韓国・朝鮮74人
2 長浜市	3,778	62,747	6.02	ブラジル2,532人、ペルー359人、フィリピン290人
3 湖南市	2,831	56,133	5.04	ブラジル1,644人、韓国・朝鮮454人、ペルー391人
4 八日市市	2,296	45,852	5.01	ブラジル1,637人、ペルー183人、韓国・朝鮮163人
5 五箇荘町	337	12,097	2.79	ブラジル205人、フィリピン64人、中国24人
6 山東町	368	13,692	2.69	ブラジル313人、中国17人、韓国・朝鮮16人
7 甲賀市	2,530	95,384	2.65	ブラジル1,381人、韓国・朝鮮370人、ペルー281人
8 栗東市	1,371	60,232	2.28	ブラジル497人、韓国・朝鮮270人、ペルー238人
9 安土町	255	12,496	2.04	ブラジル170人、韓国・朝鮮40人、ペルー18人
県全体	27,863	1,388,761	2.01	

滋賀県商工観光労働部国際課の調査に基づく。
県民50人に1人が外国人



ブラジル文化・生活への理解深めて!



「ブラジル文化・生活への理解深めて!」というテーマで、市内の小・中学校で「ブラジル文化ネット」の授業が行われている。授業では、ブラジルの文化や生活について学び、交流の大切さを学んでいる。

生体模型など教材に再座
 市内の小・中学校で「ブラジル文化ネット」の授業が行われている。授業では、ブラジルの文化や生活について学び、交流の大切さを学んでいる。

グローバルネット・シガ
 市内の小・中学校で「ブラジル文化ネット」の授業が行われている。授業では、ブラジルの文化や生活について学び、交流の大切さを学んでいる。

【序章】 命の尊厳 第5部 「問われる日本人」

第4話



「あすを聞く」の第4話は、命の尊厳をテーマにした。第5部「問われる日本人」の第4話として、命の尊厳について考えさせようとしている。

国際理解教育

違い尊重できる感性を



「ブラジルボックス」を使った英語学習。子どもたちの興味・関心が引き立つ (石原小) =国際理解教育研究会提供

「違い尊重できる感性を」というテーマで、市内の小・中学校で「ブラジル文化ネット」の授業が行われている。授業では、ブラジルの文化や生活について学び、交流の大切さを学んでいる。

用語解説

アイスブレイキング

ワークショップなどの最初にゲームなどで場を和ませ、参加者がリラックスして話やすい環境をつくること。

エンパワメント

自分らしさを活かして生きる力をつけていくこと。

ニューカマー

ここでは日本の経済成長期に来日した外国人をいう。これとは反対に戦前より日本に暮らす外国人をオールドカマーという。

ファシリテーター

様々なアクティビティを通じて参加者の思いを引き出していく参加型学習の促進役、進行役。

フォト・ランゲージ

1枚の写真について参加者がそれぞれの考えを出し合い、意見を分かち合う。

マイノリティー

少数派。少数民族。

もの・ランゲージ

1つの小物について話し合うフォト・ランゲージのものバージョン。

ランキング

用意された選択肢を参加者が意見交換しながらランク付けしていく。他の参加者と話し合う中で多様な考え方を見つけていく。

ロールプレイ

役（ロール）になりきってある問題について意見交換をする。自分とは違う立場に立つことによって1つの問題を様々な視点より考えることができる。

ワークショップ

参加者が活動を通じて1つのテーマについて考えたり、意見を交換したりすること。フォト・ランゲージ、ロールプレイやランキング等のアクティビティを参加型で行う。

お役立ちインターネットサイト

開発教育協会（DEAR） <http://www.dear.or.jp>

国際理解教育センター（ERIC） <http://www.try-net.or.jp/eric-net>

開発教育・国際理解教育ハンドブック

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kk_krk/kyouzai/handbook/html/h90000.html

国際協力機構（JICA） <http://www.jica.go.jp>

（財）滋賀県国際協会 <http://www.s-i-a.or.jp>

おわりに

平成16年度は、「違いを尊重できる感性を育てるために」をテーマに、さまざまな講師をお招きしての講演やワークショップを行いました。時代の流れとともに、私たちの身近なところにも多文化、多民族化の波が押しよせ、私たち、また次世代の子どもたちが備えておかなければならない感性について、見つめ直す機会になったと信じております。

また、滋賀県に暮らす外国人の現状にあわせて「国際理解教育教材 ブラジルボックス」を多くの方々の協力のもと作製し、県内各地の学校等へ出前講座を行い、さまざまな教育現場を体験できたことは大変貴重な経験となりました。授業後、子どもたちが遠いブラジルについて大きな関心を寄せ、より身近に感じてくれたこと、実際に地域の学校に通うブラジルの子どもたちのいきいきとした笑顔、また何より地域にお住まいのブラジルの方たちをゲストに招き、ブラジルボックスを活用していただけたことなどは、本当にうれしい実績となりました。

今後も、利用者の皆様の声を反映しながら改良を重ね、ブラジルボックスが一人でも多くの方々の手に触れていただけることを願っております。

(財)滋賀県国際協会

ブラジルボックス製作にご協力をいただいた方々
貴重な品々の手配、寄贈、授業案作成・出前講座講師に至るまで

(敬称略、順不同)

ピナツボ復興むさしのネット 出口雅子さん

奥村ルシア克子さん 田尾弥生口ザーネさん 前田オルガ豊子さん 安中シルレイさん 金ヶ江真理さん

喜多真理子さん 宗像幸夫さん 豊原大輔さん 竹屋久美子さん 伊東里彩さん 野田妙子さん
片山初美さん 久保田さん

国際理解教育研究会メンバー

川口功さん 北川謙治さん 三輪光彦さん 富川和代さん 西濱智美さん 川瀬美智子さん
川辺裕子さん 平野知見さん 池上松夫さん 川嶋稔彦さん 大内比呂子さん
左近健一郎さん 坂口利幸さん メルビル大矢恵子さん 北脇政文さん 藤井悦子さん
山和子さん 河端さやかさん 山本富美子さん 影山好江さん 脇本理絵さん 大森容子さん

彦根市国際交流課

ありがとうございました。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。



古紙/再生紙配合率100%再生紙を使用